

747

7
7

元三重縣知事成川尚義君題辭
陸軍步兵少佐田中伸稻君序
勲六等春日井是信編纂

徵集規則類纂全

三重縣津市釜屋町

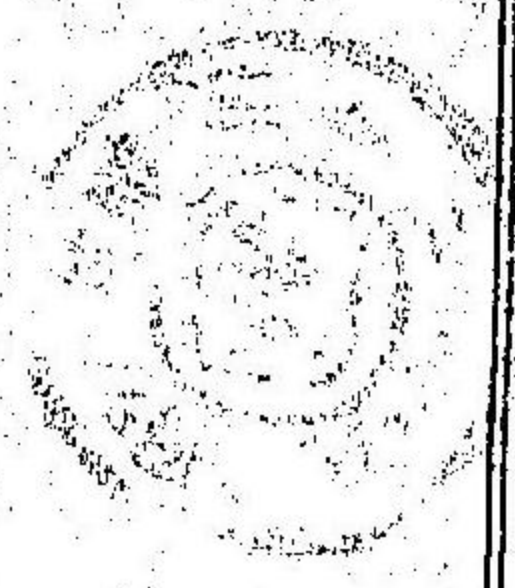
販賣所

鈴木活版所

手寫
301

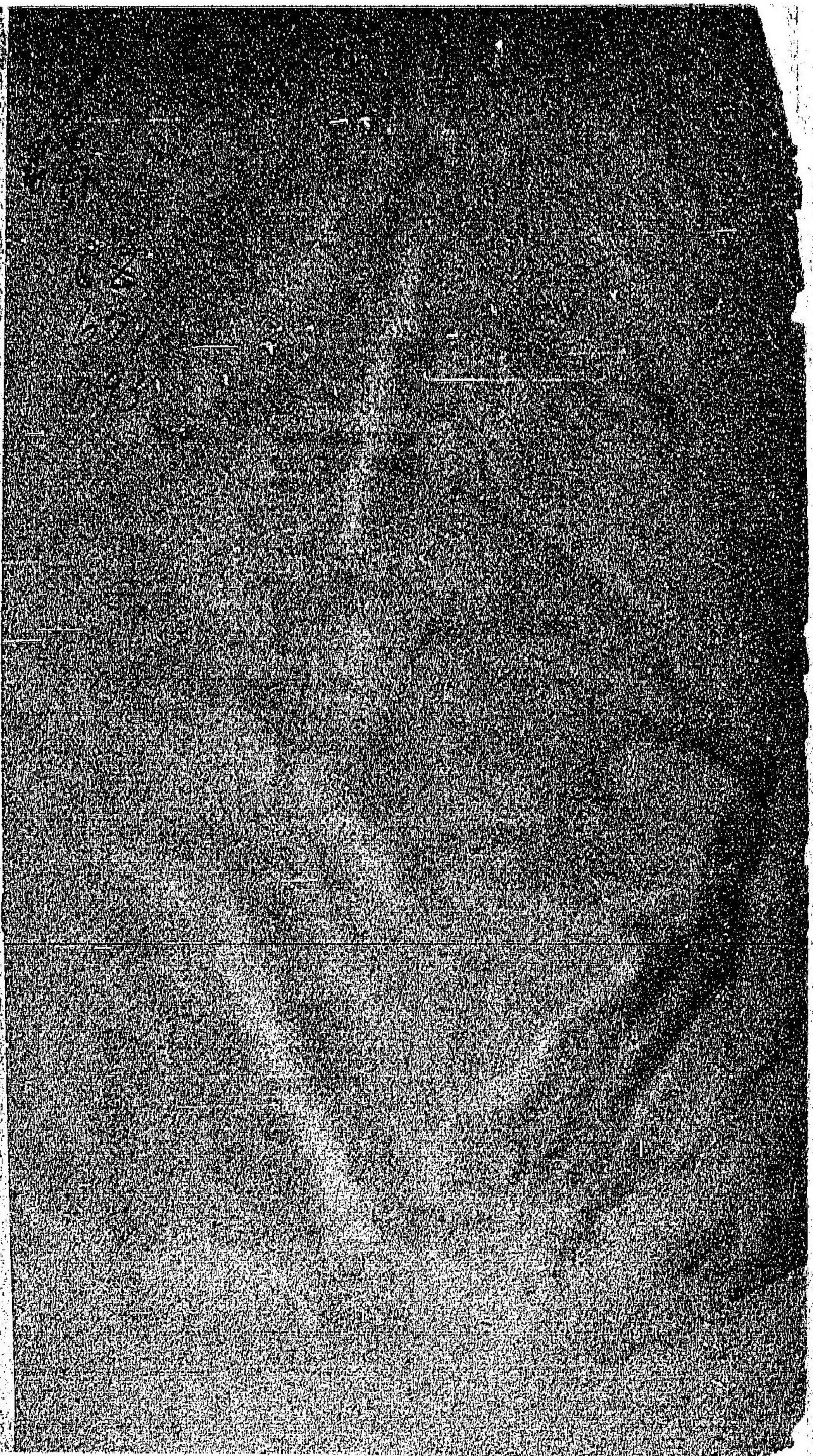
徵兵規則類纂全

元三重縣知事成川尚義君題辭
陸軍步兵少佐田中伸稻君序
殿六等春日井是信編纂



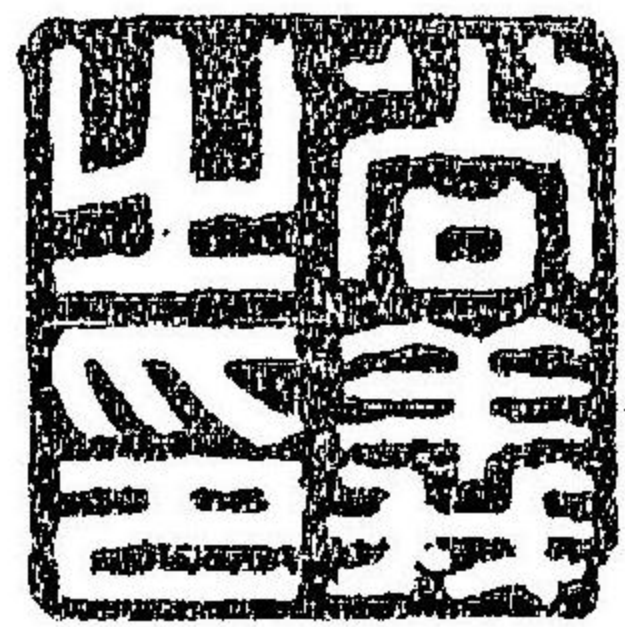
鈴木活版所藏版

善牙
持一
恩劍



明治壬辰友日

堆碧山有主人題



序
徵兵者軍旅之基礎也基礎不
鞏固豈有好結果乎此篇係于
其事務者網羅無遺因之以研
究焉誰有不熟鍊者事務熟鍊
而徵兵確實徵兵確實而軍旅
整頓而後耀武威於海外防彼

侮慢則可置國家於富嶽安矣
且使少壯子弟自蹶起有身持
一劍答君恩是爲序

從六位勳四等 田中伸稻撰

緒言

一本書編纂ノ旨趣ハ兵事ニ關スル法律命令ヲ執行シ
之ヲ應用スルノ順序ヲ明晰ニシ專ラ兵事ニ關係ア
ル諸官衙及郡市町村吏員等執務者ノ便益ヲ謀ルニ
アリ明治二十七八年日清交戦以來兵事ニ關スル諸
法令ノ改正頗ル頻繁ニシテ從來ノ法規ハ殆ント其
用ヲナサハルニ至リシヲ以テ明治三十年一月一日
迄ニ發布セラレタル諸法令ニシテ改正増補ニ係ル
モノハ悉ク之ニ訂正ヲ加ヘ以テ其全文ヲ明確ナラ
シム
一書中載スル所ノモノハ徵兵令ヲ始メ徵兵事務條例

同施行細則國民軍條例軍人恩給法陸軍服役條例陸軍召集條例同施行細則陸軍補充條例及陸軍召集規則陸軍召集諸費支出規程並陸海軍諸生徒及諸兵召集等ニ關スル條例規則ヲ以テ主トシテ執務者ノ便ニ供スルモノナリ

著者識

徵兵規則類纂目錄

徵兵令	一
徵兵事務條例	十五
徵兵事務條例施行細則	三十七
國民軍條例	七十五
國民軍編入志願ノ件	七十七
陸軍補充兵召集規則	七十八
徵兵檢査規則	八十三
徵兵旅費定則	八十六
徵兵參事員手當旅費金并支給規則	八十八
軍人恩給法	八十九
軍人恩給法施行規則	百十四
陸軍軍人恩給取扱手續	百十八

陸軍服役條例……………百三十五丁

陸軍服役條例ニ依リ現役免除ノ件……………百八十二丁

徵發令……………同 丁

徵發事務條例……………百九十五丁

徵發事務條例中徵發物件取調送附方……………二百四十二丁

陸軍武官結婚條例……………同 丁

陸軍士官學校條例……………二百四十七丁

陸軍中央幼年學校條例……………二百五十一丁

陸軍地方幼年學校條例……………二百五十七丁

陸軍六週間現役兵條例……………二百六十二丁

陸軍六週間現役兵條例施行細則……………二百六十三丁

陸軍一年志願兵條例……………二百六十九丁

陸軍一年志願兵條例施行細則……………二百七十九丁

陸軍教導團條例……………二百九十六丁

陸軍志願兵身體檢查規則……………三百 丁

陸軍下士兵卒休暇ニ關シ地方ニ係ル取扱及出願手續……………三百二丁

陸軍准士官下士支官採用細則……………三百四丁

陸軍生徒疾病傷痍ノ者手當金支給方……………三百十丁

陸軍軍人軍屬歸鄉療養者給與規則……………同 丁

陸軍軍人軍屬歸鄉療養者給與細則……………三百十四丁

陸海軍雇員官用船舶ノ船員其他疾病死歿手當方……………三百二十二丁

海軍豫備役後備役下士卒臨時召集令……………三百二十五丁

海軍臨時召集旅費支出規程……………三百三十八丁

海軍臨時召集旅費支出規程ニ依リ出納官吏ニ係ル件……………三百四十一丁

海軍豫備後備役下士卒寄留地又ハ乘組船舶ノ船籍港ニ於テ召集ニ應ゼントスル者願届出手續……………三百四十二丁

海軍現役兵身上異動届方.....三百四十四丁

海軍豫備後備兵身上異動届及取扱方.....同 丁

海軍軍人結婚條例.....三百四十五丁

海軍軍人結婚届出手續.....三百四十六丁

海軍下士服役條例.....三百四十八丁

海軍望樓長望樓手任用試験規則.....三百五十一丁

海軍兵學校條例.....三百五十四丁

海軍兵學校規則.....三百五十九丁

海軍機關學校條例.....三百六十七丁

海軍機關學校規則.....三百七十八丁

海軍志願兵徵募規則.....三百八十七丁

海軍志願兵徵募細則.....三百九十一丁

海軍志願兵家族扶助金支給規則.....四百三十三丁

海軍恩給出願書式.....四百六丁

恩給及扶助料受領ノ片生存證書差出方.....四百十七丁

海軍候補生及海軍生徒恩給支給方.....同 丁

海軍所屬員ニ賜ハルヘキ一時賜金交付方.....同 丁

屯田兵條例.....四百十八丁

屯田兵召募規則.....四百二十丁

屯田兵土地給與規則.....四百四十丁

屯田兵移住給與規則.....四百四十二丁

屯田後備役兵村及下士兵卒監視規則.....四百五十丁

死傷者手當金給與規則.....四百五十三丁

死傷者手當金給與細則.....四百五十八丁

賞勳年金支給細則.....四百六十四丁

戰役ニ從事シ公務ノ爲メ死歿シ又ハ傷痕ヲ受ケタル者ニ

對シ特別賜金取扱方.....	四百七十一丁
戰役ニ關シ功勞者ニ賜與セラルヘキ一時賜金取扱方.....	四百七十四丁
軍人軍屬ニシテ公務ノ爲メ傷痍疾病ニ罹リ治療後再發ノ者治療出願方.....	同
戰死者等ノ遺族及負傷者ニ對シ特別賜金支給方.....	四百七十五丁
陸軍管區表.....	四百七十七丁
陸軍召集條例.....	下一
陸軍召集條例施行細則.....	下三十二丁
陸軍補充條例.....	下百四十九丁
陸軍召集規則.....	下二百三丁
陸軍召集諸費支出規程.....	下二百五十九丁

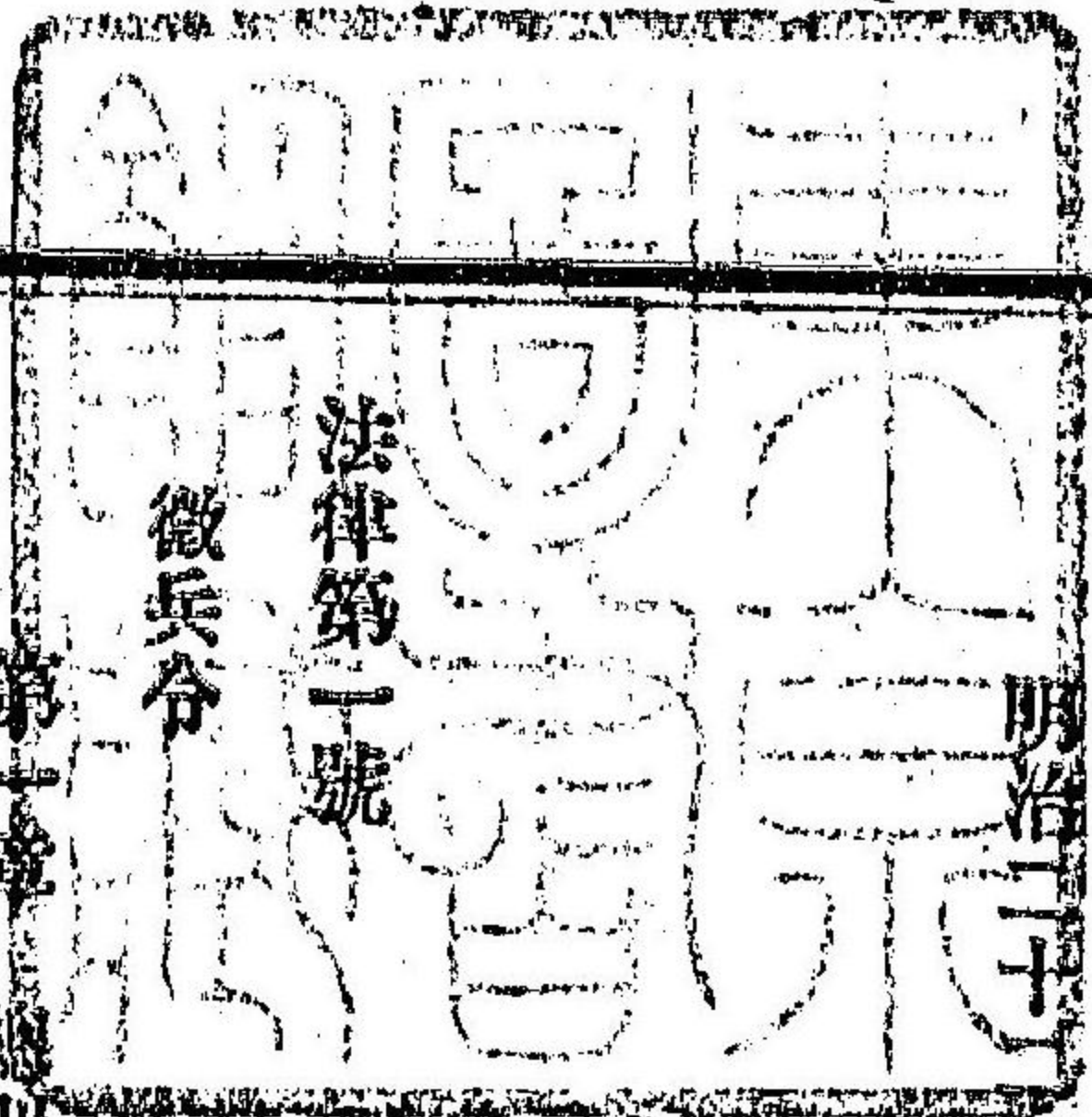
徵 兵 令

朕徵兵令改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十一年一月二十一日

内閣總理大臣 伯爵 黒田清隆
陸軍大臣 伯爵 大山 巖
海軍大臣 伯爵 西郷從道



法律第一號

徵兵令

第一章 總則

第一條 日本帝國臣民ニシテ滿十七歳ヨリ滿四十歳迄ノ男子ハ總テ兵役ニ服スルノ義務アルモノトス

第二條 兵役ハ分テ常備兵役後備兵役補充兵役及國民兵役トス

第三條 常備兵役ハ分テ現役及豫備役トス

徵兵令

二十八年
三月法律
第十五號
參看

現役ハ陸軍ハ三ヶ年海軍ハ四ヶ年ニシテ滿二十歳ニ至リタル者之ニ服シ豫備役ハ陸軍ハ四ヶ年四ヶ月海軍ハ三ヶ年ニシテ現役ヲ終リタル者之ニ服ス

第四條 後備兵役ハ五ヶ年ニシテ常備兵役ヲ終リタル者之ニ服ス

第五條 補充兵役ハ陸軍ニ在テハ第一補充兵役第二補充兵役トシ第一補充兵役ハ七ヶ年四ヶ月ニシテ其年所要ノ現役兵員ニ超過スル者ノ中所要ノ人員之ニ服シ第二補充兵役ハ一ヶ年四ヶ月ニシテ其年所要ノ第一補充兵員ニ超過スル者之ニ服ス又海軍ニ在テハ一ヶ年ニシテ其年所要ノ現役兵員ニ超過スル者之ニ服ス

第六條 國民兵役ハ分テ第一國民兵役第二國民兵役トス

第一國民兵役ハ後備兵役及第一補充兵役ヲ終リタル者之ニ服シ第二國民兵役ハ常備兵役後備兵役補充兵役及第一國民兵役ニ在ラサル者之ニ服ス

第七條 各兵役ノ期限既ニ滿ルト雖モ戰時或ハ事變ニ際スルトキ若クハ臨時ニ演習或ハ觀兵ノ擧アルトキ若クハ航海中或ハ外國駐劄中ハ其期ヲ延スコトアルヘシ

第八條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ兵役ニ服スルコトヲ許サス

第二章 服役

第九條 陸軍現役兵及補充兵ハ每年所要ノ人員ニ應シ壯丁ノ身材藝能職業ニ從ヒ歩兵騎兵砲兵工兵輜重兵職工及雜卒ニ區別シ抽籤ノ法ニヨリ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充

海軍現役兵及補充兵ハ每年所要ノ人員ニ應シ沿海地方及島嶼ノ壯丁ヲ調査シ海軍ニ適スル職業ニ從ヒ水兵火夫職工及雜卒ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ但海軍志願兵徵募規則ニ依リ服役スル者ハ本令ノ限ニアラス

警備隊ヲ置キタル島嶼ノ壯丁近衛師團ニ編入スル者ヲ除クハ總テ之ヲ警備隊ニ充テ其地ニ於テ服役セシム但在營期限ハ一箇年以内トス

第十條 雜卒ノ現役期限ハ其職務ニ因リ之ヲ短縮スルコトアル可シ但常備兵役ノ全期ハ之ヲ減スルコトナシ

第十一條 抽籤番號ノ順序ニ由リ其年ノ補充兵役所要員ニ超過スル者ハ國民兵役ニ服セシム

第十二條 二十歳ニ至ラスト雖モ滿十七歳以上ノ者ハ志願ニ由リ現役ニ服スルコトヲ得

第十三條 滿十七歳以上滿二十八歳以下ニシテ官立學校ノ別科ヲ除ク 府縣立師範

學校中學校若クハ文部大臣ニ於テ中學校ノ學科程度ト同等以上ト認メタル學校若

クハ文部大臣ノ認可ヲ經タル學則ニ依リ法律學政治學理財學ヲ教授スル私立學校

ノ卒業證書ヲ所持シ若クハ陸軍試驗委員ノ試験ニ及第シ服役中食料被服裝具等ノ

費用ヲ自辨シ豫備後備將校タル冀望ヲ有スル者ハ志願ニ由リ一ケ年間陸軍現役ニ

服スルコトヲ得但費用ノ全額ヲ自辨シ能ハサルノ證アル者ニハ其幾部ヲ官給スル

コトアルヘシ

一年志願兵ノ豫備後備役年期ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

滿十七歳以上滿二十八歳以下ニシテ官立府縣立師範學校ノ卒業證書ヲ所持シ官立

公立小學校ノ教職ニ在ル者ハ六週間陸軍現役ニ服セシム其服役ニ關スル費用ハ官

給トス

前項ノ現役ヲ終リタル者ハ直チニ國民兵役ニ服セシム

第三項又ハ第四項ニ依リ服役中ノ者ニシテ滿二十八歳迄ニ其教職ヲ罷ムル者ハ抽

籤ノ法ニ依ラスシテ更ニ二ケ年間陸軍現役及常例ノ豫備後備役ニ服セシム但第

一項ニ依リ一年志願兵ヲ志願スル者ハ此限ニアラス

第十四條 禁錮ノ刑ニ處セラレ若クハ賭博犯ニ由リ懲罰ニ處セラレタル者ハ一年志

願兵タルコトヲ許サス

第十五條 現役中殊ニ勤務ニ熟シ品行方正ナル者ハ歸休ヲ命スルコトアル可シ

第十六條 豫備兵後備兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ召集ス平常ニ在テハ毎年一度

六十日以内勤務演習ノ爲メ之ヲ召集シ又毎年一度簡閱點呼ヲ爲ス

第十七條 第一補充兵及海軍補充兵ハ現役兵ノ補欠ニ充テ又戰時若クハ事變ニ際シ

之ヲ召集ス但第一補充兵ヲ以テ現役兵ノ補欠ニ充ツルハ其服役ノ初年ニ限ル

第一補充兵ハ平常ニ在テ百五十日以内教育ノ爲メ之ヲ召集ス其他勤務演習及簡閱

點呼ヲ爲スコト豫備兵ニ同シ

第二補充兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ第一補充兵ヲ召集シ仍ホ兵員ヲ要スルトキ之ヲ召集ス

第十八條 國民兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ後備兵ヲ召集シ仍ホ兵員ヲ要スルトキニ限リ之ヲ召集ス

第三章 免役延期及猶豫

第十九條 兵役ヲ免スルハ廢疾又ハ不具等ニシテ徵兵検査規則ニ照ラシ兵役ニ堪ヘサル者ニ限ル

第二十條 左ニ掲クル者ハ徵集ヲ延期ス次年ニ於テ徵集ニ適セサル者ハ國民兵役ニ服セシム

第一 體格完全且強壯ナルモ身幹未タ定尺ニ滿タサル者

第二 疾病中又ハ病後ニシテ勞役ニ堪ヘサル者

第二十一條 公權ノ剝奪若クハ停止ヲ附加スヘキ重輕罪ノ爲メ訊問若クハ拘留中ノ者ハ徵集ヲ延期ス

第二十二條 徵集ニ應スルトキハ其家族自活シ能ハサルノ確證アル者ハ本人ノ願ニ由リ徵集ヲ延期ス其事故三箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム但分家又ハ絶家廢家再興ノ故ヲ以テ本條ニ當ル者其他自活シ能ハサル事故ヲ作爲シタル者ハ其願ヲ許可セス

第二十三條 第十三條第一項ニ掲クル學校ニ在校ノ者ハ本人ノ願ニ由リ滿二十八歲迄徵集ヲ猶豫ス其事故滿二十八歲迄ニ止ミ又ハ二十八歲ヲ過クルモ仍ホ止マサル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ之ヲ徵集ス但第十三條第一項ニ依リ一年志願兵ヲ志願スル者及第十三條第二項ニ依リ服役スル者ハ此限ニ在ラス

外國ニ在ル者朝鮮國ニ在ル者ヲ除クハ本人ノ願ニ由リ徵集ヲ猶豫ス滿二十二歲迄ニ歸朝スル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ之ヲ徵集シ三十二歲ヲ過クル者ハ國民兵役ニ服セシム但第十三條第一項ニ依リ一年志願兵ヲ志願スル者ハ此限ニアラス

第二十四條 餘人ヲ以テ代フ可カラサル職務ヲ奉スル官吏及市町村長助役及收入役ハ豫備兵後備兵ニ在ルト第一補充兵ニ在ルトヲ問ハス勤務演習簡閱點呼ノ爲メ召

集スルコトナシ

法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員其開會中亦同シ

第四章 雜則

第二十五條 毎年一月ヨリ十二月迄ニ滿二十歳ト爲ル者ハ其年ノ一月一日ヨリ同月

三十一日迄ニ又第二十三條第一項ニ當ル者ニシテ二十八歳迄ニ事故止ミ同條第二

項ニ當ル者ニシテ三十二歳迄ニ歸朝シタル者ハ十四日以内ニ書面ヲ以テ 戸主ニ非

ハ其戸主ヨリ本籍ノ市町村長ニ届出可シ但二十歳未滿ニシテ現役ヲ終ヘタル者又ハ現役

中ノ者ハ本條ノ届出ヲ爲スニ及ハス

第二十六條 徴集ハ本籍所在ノ徴募區ニ於テスルモノトス

第二十七條 疾病又ハ犯罪等ノ爲メ期限ニ際シ入營シ難キ者ハ翌年之ヲ徴集ス

第二十八條 兵役ヲ免レンガ爲メ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐偽ノ所爲ヲ用ヒ

又ハ逃亡若クハ潜匿シタル者又ハ正當ノ事故ナク身體ノ検査ヲ受ケサル者ハ抽籤

ノ法ニ依ラスシテ之ヲ徴集ス

第二十九條 服役年限ノ計算ハ現役豫備役補充役及海軍後備役ニ在テハ各其役ニ就

ク年ノ十二月一日 第十三條第三項ニ依リ 計算ハ別ニ勅令ヲ以テ規定スル月日ヨリ起算スヨリ陸軍後備役

ニ在テハ其役ニ就ク年ノ四月一日ヨリ起算ス但第七條ニ依リ延期シタルモノト雖

モ服役年期ノ計算ハ延期セサル者ニ同シ

現役中禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ逃亡シタル者其刑期中及逃亡中ノ日數ハ現役年期

ニ算入セス其豫備役年期ハ現役ヲ終ル年ヨリ起算シ陸軍ニ在テハ第六年目ノ三月

三十一日迄海軍ニ在テハ第五年目ノ十一月三十日迄トス但第十條ニ依リ現役年期

ヲ短縮シタルモノハ其現役ヲ短縮シタル場合ニ於ケル豫備役年期ニ應シ本項ニ準

シテ計算ス

豫備役後備役及補充役中犯罪ノ爲メ又ハ正當ノ事由ナクシテ召集ヲ缺キタル者其

召集ヲ缺キタル年ハ服役年期ニ算セス

第五章 罰則

第三十條 第二十五條ノ届出ヲ爲サ、ル者及正當ノ事故ナク身體ノ検査ヲ受ケサル

者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條 兵役ヲ免レンガ爲メ逃亡シ又ハ潜匿シ若クハ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲ヲ用ヒタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第六章 附則

第三十二條 本令ハ明治二十二年一月ヨリ施行ス但二十五條ノ届出期限ハ明治二十二年限リ三月一日ヨリ同月十五日迄トス

第三十三條 本令ハ北海道ニ於テ函館江差福山ノ外及沖繩縣并東京府管下小笠原島ニハ漸ヲ以テ施行ス其時期區域及特ニ徵集ヲ免除シ若クハ猶豫スヘキモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十四條 本令中市町村長トアルハ市制町村制ヲ實施スル迄ノ間戸長ノコトトス

第三十五條 現今陸軍豫備役ニ在ル者ノ服役年期ハ第三條ニ依ル其後備役ニ在ル者ハ常備役年期ヲ通シテ二十二年四ヶ月トス

第三十六條 舊令第十七條ニ依リ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ徵集ヲ延期シ其事故七箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第三十七條 舊令第十八條第二項ニ依リ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ徵集ヲ延期シ其事故七箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第三十八條 舊令第十八條第七項及第二十一條ニ依リ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ徵集ヲ延期シ其事故七ヶ年ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第三十九條 舊令第十八條第三項ノ生徒ニシテ第一豫備徵員トナリ仍ホ在校ノ者ハ該徵員タルコトヲ止メ滿二十七歳迄徵集ヲ猶豫シ其事故二十七歳ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第四十條 第三十六條第三十七條第三十八條及第三十九條ニ掲クル者其事故各其本條ノ期限内ニ止ミタルトキハ抽籤ノ法ニ依リ徵集ス但一年志願兵ヲ志願スルコトヲ得

第四十一條 舊令第十八條第三項若クハ第十九條ニ依リ徵集猶豫ニ屬シ在校ノ者ハ

其事故八箇年以内ニ止ミタルトキ又ハ八箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ抽籤ノ法ニ依リ徵集ス但一年志願兵ヲ志願スルコトヲ得

第四十二條 舊令第二十條ニ依リ補充員ト爲リタル者ハ之ヲ豫備徵員ト爲シ一箇年間明治二十一年十二月十二日ニ徵集セサル者ハ國民兵役ニ服セシム

第四十三條 舊令第三十一條ニ依リ第一豫備徵員ト爲リ在校セサル者及舊令第三十二條ニ依リ第二豫備徵員ト爲リタル者ハ直ニ國民兵役ニ服セシム補充員ヨリ第一豫備徵員ト爲リタル者亦同シ

第四十四條 明治十二年第四十六號布告徵兵令ニ依リ國民軍ノ外免役又ハ平時免役若クハ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ直ニ國民兵役ニ服セシム

第四十五條 舊令第八條ニ依リ海軍兵ト爲リタル者ノ服役期限ハ同令第三條及第四條ニ依ル

第四十六條 第三十六條第三十七條第三十八條ニ掲クル徵集延期ノ者及第三十九條第四十一條ニ掲クル徵集猶豫ノ者其事故各其本條ノ期限内ニ止ミタルトキハ三日

以内ニ本籍ノ市町村長ニ届出可シ

第十三條第三項又ハ第四項ニ依リ服役中ノ者ニシテ滿二十八歳迄ニ其教職ヲ罷ムル者ハ三日以内ニ本籍ノ市町村長ニ届出可シ

第一項及第二項ノ届出ヲ爲サ、ル者及本令施行前舊令第三十五條第三十六條ノ届出ヲ爲サスシテ本令施行後ニ發覺スル者ハ本令第三十條ニ依リ處分ス可シ

徵兵令終

徵兵事務條令

勅令第百十二號

(明治廿九年三月三十日)

徵兵事務條例

第一章 徵兵區

第一條 徵兵區ハ師管及聯隊區又ハ警備隊區ノ區域ニ從フ

第二條 聯隊區及警備隊區ハ更ニ之ヲ徵募區ニ分ツ

第三條 徵募區ハ一郡又ハ一市北海道ニ在テハ區ヲ以テ一區ト爲ス

一市ニシテ二聯隊區ニ分屬スルモノハ各別ニ一區ト爲ス

數郡ニ一郡役所ヲ置クモノハ數郡ヲ併セ一區ト爲ス其ノ島廳ヲ置クモノ亦同シ

東京市、京都市、大阪市ニ於テハ更ニ徵募區ヲ檢査區ニ分チ區ヲ以テ檢査區ト爲ス

第四條 步兵隊ノ兵員ハ聯隊毎ニ其ノ師管ノ一聯隊區ヨリ其ノ他ノ兵員ハ其ノ師管

各聯隊區ヨリ徵集ス但要員ヲ充シ能ハサルトキハ他ノ聯隊區若クハ他ノ師管ヨリ

其不足ヲ補充スルコトヲ得

警備隊ノ兵員ハ其ノ警備隊區ヨリ徵集ス

海軍兵員ハ各師管内沿海及島嶼ヲ包括スル聯隊區ヨリ徵集ス

第二章 徵兵官

第五條 徵兵官ハ總理徵兵官、師管徵兵官、聯隊區徵兵官、警備隊區徵兵官及聯隊區聯合徵兵署徵兵官トス

第六條 總理徵兵官ハ內務大臣及陸軍大臣ヲ以テ之ニ充テ全國徵兵ノ事ヲ統轄ス

第七條 師管徵兵官ハ師管内府縣毎ニ師團長及府縣知事ヲ以テ之ニ充テ師團長ヲ首坐トシ其ノ管内府縣徵兵ノ事ヲ統轄ス

北海道ニ於テハ師團長及北海道廳長官ヲ以テ師管徵兵官ニ充テ師團長ヲ首坐トシ其ノ管内徵兵ノ事ヲ統轄ス

第八條 聯隊區徵兵官ハ聯隊區内徵募區毎ニ聯隊區司令官及島司郡市長北海道ノ區ニ在テハ區長ヲ以テ之ニ充テ警備隊區徵兵官ハ警備隊司令官及島司郡長ヲ以テ之ニ充テ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ヲ首坐トシ其ノ區内徵募事務ヲ執行ス東京市、京都市、大阪市ニ於テハ檢査區毎ニ聯隊區司令官及區長ヲ以テ聯隊區徵兵

官ニ充テ聯隊區司令官ヲ首坐トシ抽籤事務ヲ除クノ外其ノ區内徵募事務ヲ執行ス

第九條 聯隊區聯合徵兵署徵兵官ハ東京市、京都市、大阪市ニ於テ徵募區毎ニ聯隊區司令官、市參事會員タル府ノ書記官及各區長ヲ以テ之ニ充テ聯隊區司令官ヲ首坐トシ其ノ區内抽籤事務ヲ執行ス

第十條 第八條第九條ニ掲クル徵兵官ノ外聯隊區内徵募區東京市、京都市、大阪市、每ニ在テハ檢査區聯隊區徵兵參事員警備隊區内徵募區毎ニ警備隊區徵兵參事員ヲ置ク

第十一條 聯隊區徵兵參事員又ハ警備隊區徵兵參事員ハ徵兵令第二十二條ニ當ル徵集延期及徵集免除並ニ明治二十八年勅令第二百二十六號第二條ノ徵集猶豫ニ關スル事件ヲ審議シ意見ヲ徵兵官ニ具申スルヲ任トス但徵兵官ノ裁決ニ付可否ヲ議スルノ權ナキモノトス

第十二條 聯隊區徵兵參事員又ハ警備隊區徵兵參事員ハ郡市名譽職參事會員ヲ以テ之ニ充ツ但市ニ於テハ其ノ市名譽職參事會員ニ於テ四名ヲ互選シ之ヲ定ム東京市、京都市、大阪市ノ區ノ聯隊區徵兵參事員ハ市會ニ於テ其ノ區内ニ住スル市

公民中選舉權ヲ有スル者ヨリ四名ヲ選舉シ之ヲ定ム其任期ハ市會議員ノ例ニ依ル
島廳ヲ置ク島嶼ノ聯隊區徵兵參事員又ハ警備隊區徵兵參事員ハ島司ニ於テ各町村
會議員中ヨリ四名ヲ選ヒ府縣知事ノ認可ヲ得テ之ヲ命ス其ノ任期ハ町村會議員ノ
任期ニ依ル

北海道ノ郡又ハ區ノ聯隊區徵兵參事員ハ徵募區毎ニ四名トシ北海道廳長官之ヲ命
ス其ノ任期等ハ北海道廳長官ノ定ムル所ニ依ル

第十三條 毎年徵募事務執行中ハ師管徵兵醫官及聯隊區徵兵醫官又ハ警備隊區徵兵
醫官ヲ置ク

師管徵兵醫官ハ師管內徵兵身體檢査ニ係ル事ヲ總管シ聯隊區徵兵醫官又ハ警備隊
區徵兵醫官ハ徵兵身體ノ檢査ニ從事ス

第十四條 師管徵兵醫官ハ師團軍醫部長ヲ以テ之ニ充テ聯隊區徵兵醫官又ハ警備隊
區徵兵醫官ハ聯隊區司令部又ハ警備隊司令部附軍醫一名ヲ以テ之ニ充ツルヲ例ト
ス

第十五條 毎年徵募事務執行中ハ聯隊區徵兵署、警備隊區徵兵署及聯隊區聯合徵兵
署ニ事務員ヲ置キ該徵兵署ノ庶務ニ從事セシム

第十六條 聯隊區徵兵署事務員又ハ警備隊區徵兵署事務員ハ聯隊區書記又ハ警備隊
書記二名及島廳都市書記東京市、京都市、大阪市及北
海道ノ區ニ在テハ區書記二名若クハ三名ヲ以テ之ニ充
ツ

聯隊區聯合徵兵署事務員ハ聯隊區書記二名府屬二名及各區書記二名若クハ三名ヲ
以テ之ニ充ツ

第十七條 毎年徵募事務執行中ハ地方醫師若干名ヲ以テ徵兵醫官補助員トシ北海道
廳長官府縣知事之ヲ命ス、

徵兵醫官補助員ハ徵兵醫官ノ指揮ヲ受ケ身體檢査ノ事ヲ補助ス

第三章 配賦

第十八條 毎年徵集スヘキ現役兵及補充兵ノ員數ハ上裁ヲ經テ陸軍大臣之ヲ各師管
ニ配賦ス

第十九條 師團長ハ第十八條ニ依リ現役兵及補充兵ノ要員ヲ各聯隊區又ハ警備隊區ニ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ之ヲ各徵募區ニ配賦ス

第二十條 現役兵及補充兵ノ配賦ハ壯丁ノ總數ヲ率トシ比例ヲ以テ之ヲ定ム

第四章 徵募

第二十一條 町村制ヲ施行セサル地方ハ毎年戶籍簿ニ據リ徵兵適齡者ヲ取調ニ在テハ戶長以下同シ
ハ徵兵令第二十五條ノ屆書ニ照較シ壯丁名簿ヲ作り二月十五日迄ニ島司又ハ郡長ニ差出シ島司郡長ハ點檢ノ後之ヲ一徵募區ニ取纏メ前年假決ノ諸名簿ト共ニ聯隊區徵兵署又警備隊區徵兵署ニ提出スヘシ

市長 東京市、京都市、大阪市及北海道ノ區ニ在テハ區長以下同シ
ハ前項ノ例ニ依リ壯丁名簿ヲ作り前年假決ノ諸名簿ト共ニ之ヲ聯隊區徵兵署ニ提出スヘシ

第二十二條 毎年徵募事務執行ノトキハ各徵募區及檢査區ニ聯隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ヲ設ク但土地廣濶壯丁多數ノ徵募區ニ於テハ二箇所以上ノ地ニ逐次開設スルコトヲ得

設ク
東京市、京都市、大阪市ニ於テハ抽籤執行ノ爲メ別ニ徵募區ニ聯隊區聯合徵兵署ヲ設ク

第二十三條 聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ島司郡市長ニ協議シ徵兵署開設ノ日割ヲ定メ聯隊區司令官警備隊司令官ハ師團長ニ島司郡市長ハ北海道廳長官府縣知事ニ申報スヘシ

聯隊區聯合徵兵署開設ノ日割ハ聯隊區司令官ヨリ府ノ書記官ニ協議シ之ヲ定メ聯隊區司令官ハ師團長ニ府ノ書記官ハ府知事ニ申報シ且府ノ書記官ハ徵兵署開設ノ日割及其ノ場所ヲ區長ニ達スヘシ
島司郡市長ハ檢査抽籤ノ日時及徵兵署設置ノ場所ヲ豫メ聯隊區徵兵參事員又ハ警備隊區徵兵參事員ニ通知シ且其ノ管内ニ告示スヘシ

第二十四條 兵役ノ適否ヲ定ムル爲メ聯隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ニ於テ壯丁ノ身體檢査ヲ行フ其ノ檢査ハ徵兵官及徵兵參事員ノ面前ニ於テスルモノトス

第二十五條 聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ壯丁ノ身體檢査ノ事ヲ監督シ兵種ノ

選定ニ任ス

第二十六條 島司郡市長ハ徵集延期及徵集猶豫ニ關スル書類ノ調査及事實ノ審覈ニ任ス

第二十七條 壯丁ノ身體檢査終ルトキハ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ハ徵集延期、徵集猶豫、徵集免除及兵役免除ノ處分ヲ爲シ又壯丁名簿ヲ以テ徵集名簿、徵集延期名簿、徵集猶豫名簿、徵集免除名簿及兵役免除名簿ヲ作ルヘシ

第二十八條 身體檢査ニ合格シタル壯丁ハ徵集順序ヲ定ムル爲メ徵募區毎ニ體格ノ等位及兵種ヲ分チ聯隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ニ於テ抽籤ヲ行フ但東京市、京都市、大阪市ニ於テハ聯隊區聯合徵兵署ニ於テ之ヲ行フ

抽籤ハ徵兵官及徵兵參事員ノ面前ニ於テ抽籤總代人之ヲ爲スモノトス
抽籤總代人ハ徵募區又ハ檢査區毎ニ籤丁ノ選ヲ以テ二名若クハ三名ヲ出スモノトス

第二十九條 前條ノ徵兵官ハ總代人ノ抽キタル籤番號ノ順序ニ依リ抽籤名簿ニ通フ

作ルヘシ

第三十條 抽籤終ルトキハ抽籤名簿及徵集名簿ハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官之ヲ領シ抽籤名簿、徵集延期名簿、徵集猶豫名簿、徵集免除名簿及兵役免除名簿ハ島司郡市長之ヲ領シ島廳、都市役所、東京市、京都市、大阪市及北海道ニ備置クヘシ但東京市、京都市、大阪市ニ於テハ市長ノ領スヘキ抽籤名簿ハ府ノ書記官之ヲ領シ府廳ニ備置クヘシ

第三十一條 各徵募區ノ抽籤終ルトキハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ第十九條ノ配賦ニ基キ現役兵徵募及補充兵編入ノ處分ヲ爲シ又徵集名簿ヲ以テ現役兵名簿、補充兵名簿及要員超過名簿ヲ作ルヘシ

第三十二條 聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ現役兵名簿ヲ各聯隊長聯隊ヲ爲サザル隊ニ在テハ其ノ及海兵團長ニ交付シ且現役兵ニ徵募スヘキ者及補充兵ニ編入スヘキ者ノ順序ヲ島司郡市長ニ通知スヘシ但東京市、京都市、大阪市ニ在テハ府ノ書記官ニ通知スヘシ

抽籤名簿及補充兵名簿ハ之ヲ聯隊區司令部又ハ警備隊司令部ニ備置キ要員超過名簿ハ島司郡市長ニ交付シ島廳郡市役所ニ備置クヘシ

第三十三條 第二十七條ノ處分ヲ爲シタル者ニハ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官第三十一條ノ處分ヲ爲シタル者ニハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官各其ノ證書ヲ附與ス但徵集免除ノ者並ニ要員ニ超過シタル者ニハ證書ヲ附與セス

第三十四條 徵募事務終ルトキハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ徵兵事務報告書及徵兵表ヲ作り師團長ニ差出シ師團長ハ師管徵兵事務報告書及徵兵表ヲ作り陸軍大臣ニ差出シ陸軍大臣ハ全國徵兵表ヲ作り奏上スヘシ

第五章 裁決

第三十五條 裁決ハ分テ假決及終決ノ二種トス

第三十六條 假決ハ徵集延期及徵集猶豫ノ事ヲ裁決シ終決ハ現役兵徵募、補充兵編入、要員超過、徵集免除及兵役免除ノ事ヲ裁決ス

第三十七條 徵集延期、徵集猶豫、徵集免除及兵役免除ノ裁決ハ聯隊區徵兵官又ハ警

備隊區徵兵官之ヲ爲シ其ノ他ノ裁決ハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官之ヲ爲ス

第三十八條 壯丁若シハ其ノ家族ニ於テ徵兵令第二十二條及明治二十八年勅令第百

二十六號第二條ニ關スル聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ノ裁決ニ不服アルトキハ師管徵兵官ニ師管徵兵官ノ裁決ニ不服アルトキハ總理徵兵官ニ訴願スルコトヲ得但訴願ノ爲ニ裁決ノ執行ヲ停止セス

本條ノ訴願ハ裁決書ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ爲スヘシ其ノ期日ヲ過クルモノハ受理セス

第三十九條 徵兵官ノ裁決ニ對シ訴願ヲ爲サントスル者ハ其ノ訴願書ニ同徵募區内其ノ年徵集ニ應ヌヘキ壯丁ノ戸主三名ノ保證書ヲ添ヘ其ノ裁決ヲ爲シタル徵兵官ヲ經由シテ差出スヘシ

第四十條 徵兵官第三十九條ノ訴願書ヲ受領シタルトキハ之ニ前裁決ニ關スル書類ヲ添ヘ上級ノ徵兵官ニ差出スヘシ

第四十一條 徵兵官ノ裁決ニ對シテ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ許サス

第六章 現役兵及補充兵

第四十二條 現役兵入營期日ハ毎年十二月一日トス但疾病犯罪其ノ他ノ事故ニ由リ十二月一日ニ入營シ難キ者ハ同月三十一日迄ニ入營セシム

警備隊諸兵ノ入營ハ二期ニ分チ其ノ第一期ハ徵募年ノ十二月一日第二期ハ翌年六月一日トシ砲兵輸卒ノ入營ハ三期ニ分チ其ノ第一期ハ徵募年ノ十二月一日第二期ハ翌年四月一日第三期ハ同年八月一日トシ輜重輸卒ノ入營ハ四期ニ分チ其ノ第一期ハ徵募年ノ十二月一日第二期ハ翌年三月一日第三期ハ同年六月一日第四期ハ同年九月一日トス

仙臺、札幌、弘前、金澤ノ各衛戍地ニ於テハ砲兵輸卒ノ入營ハ二期ニ分チ其ノ第一期ハ徵募年ノ翌年四月一日第二期ハ同年八月一日トシ輜重輸卒ノ入營ハ三期ニ分チ其ノ第一期ハ徵募年ノ翌年三月一日第二期ハ同年六月一日第三期ハ同年九月一日トス

戰時若クハ事變ニ際シテハ第二期以下ノ入營期日ヲ變更スルコトヲ得

第四十三條 現役兵入營ノトキハ先ツ聯隊區司令部若クハ便宜ノ地ニ召集シ入營兵

引率員之ヲ入營地ニ引率シ聯隊區司令部所在ノ入營地ニ在テハ聯隊區司令部ヨリ直ニ當該隊長ニ交付ス但入營

兵五人未滿ナルトキハ直ニ入營地ニ單行セシム

海軍現役兵ハ其ノ集合地ニ引率シ入營兵受領員ニ交付スルモノトス但入營兵引率員出發後到着シタル者ハ直ニ入營地ニ單行セシム

第四十四條 現役兵入營ニ際シ父母ノ疾病危篤或ハ死亡ノ爲メ入營ノ延期ヲ願フ者

アルトキハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ於テ十四日以内ノ延期ヲ許スヘシ

其ノ延期ヲ願フ者ハ願書ニ市町村長ノ與書證印ヲ受ケ其ノ父母疾病危篤ノ者ハ醫師ノ診斷證書ヲ添ヘ差出スヘシ

第四十五條 現役兵入營前ハ第四條ノ區域外ニ轉籍戶籍上本人ノ出入モ含有ス以下同シスルモ所屬

ノ隊籍ヲ變更セス

徵兵令第二十七條ニ當リ翌年回ト爲リタル者ハ身體檢査ヲ行ヒ更ニ隊籍ヲ定ムルモノトス但第四條ノ區域外ニ轉籍シタル者ハ其ノ地ニ於テ身體檢査ヲ行ヒ隊籍ヲ

定ム

第四十六條 現役兵入營前死亡シ若クハ疾病犯罪其ノ他ノ事故ニ由リ十二月三十一日迄ニ入營シ難シト認メタル者又ハ入營ノ後翌年一月三十一日前ニ死亡シタル者若クハ一時服役ニ堪ヘサル者又ハ常備後備ノ服役及永久服役ニ堪ヘ難キ者アルトキハ其ノ徵募區同兵種ノ第一補充兵若クハ海軍補充兵ヲ以テ抽籤番號ノ順序ニ從ヒ補充シ若シ其ノ徵募區ヨリ補充スルコト能ハサルトキハ聯隊區内他ノ徵募區ヨリ補充ス其ノ配賦ハ各徵募區補充兵ノ總數ヲ率トシ比例ヲ以テ之ヲ定ム但警備隊諸兵及砲兵輸卒、輜重輸卒ニシテ入營スヘキ月ノ二十日迄ニ本文ノ事故ヲ生シタル者アルトキハ次期入營スヘキ者ヲ繰上ケ入營セシム其ノ最終期ニ在テハ前期ニ繰上ケタル缺員ト其ノ期ノ缺員ハ第一補充兵ヲ以テ補充ス

第四十七條 現役兵入營前癩疾又ハ不具ト爲リ永久兵役ニ堪ヘ難キ者アルトキハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ於テ兵役ヲ免ヌ但徵兵令第二十七條ニ當リ翌年回ト爲リタル者其ノ年徵募事務終結前ハ此ノ限ニ在ラス

第四十八條 現役兵入營前徵兵令第二十二條ニ當ルヘキ事故ノ生スルトキハ本人ノ願ニ由リ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ於テ徵集ヲ延期ス

其ノ願書ニハ同徵募區内其ノ年徵集ニ應スヘキ現役兵ノ戶主二名ノ保證書ヲ添ヘ島司郡市長ヲ經テ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ差出スヘシ但町村ニ在テハ町村長ノ與書證印ヲ受クヘキモノトス

島司郡市長ハ其ノ事實ヲ審覈シ狀況書ヲ作り願書ト共ニ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ送付スヘシ

第四十九條 現役兵入營前及補充兵補充兵證書附與後其ノ年十一月三十日以前ノ者以下同シ轉籍シタルトキハ十四日以内ニ島司郡市長ヲ經テ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ届出ヘシ但町村ニ在テハ町村長ヲ經由スヘシ

其ノ轉籍聯隊區外又ハ警備隊區外ニ係ルトキハ舊住地聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ヨリ新住地聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ通報スヘシ
本條ノ届出ヲ爲ササル者ハ五錢以上壹圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第五十條 現役兵入營前及補充兵寄留若クハ十四日以上ノ旅行ヲ爲サントスルトキハ召集ノ命アルトキ之ヲ通報スヘキ者ヲ定メ島司郡市長ヲ經テ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ届出ヘシ其ノ復歸シタルトキ亦届出ヘシ但町村ニ在テハ町村長ヲ經由スヘシ

本條ノ届出ヲ爲ササル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
通報人正當ノ事由ナクシテ召集ノ命ヲ通報セス若クハ其ノ通報ヲ遲緩シタルトキハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第七章 雜則

第五十一條 徵兵令第十二條ニ依リ現役ニ服センコトヲ志願スル者ハ其ノ願書ニ戶主或ハ後見人連署シ身元證書ヲ添ヘ市町村長ノ奥書證印ヲ受ケ九月一日以前自己ノ服役セント欲スル軍隊又ハ海兵團ニ届出テ許可ヲ受クヘシ但軍隊又ハ海兵團遠隔ノ地ニ居住ノ者ハ徵兵檢査ノ際聯隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ニ申立テ身體檢査ヲ受ケ合格ノ者ハ合格證書ヲ添ヘ届出ルコトヲ得

檢査ノ爲メ往復ノ旅費及入營旅費ハ自辨トス

第五十二條 第五十一條ニ依リ服役ノ許可ヲ受ケタル者ハ入營前本籍地ノ市町村長ニ届出ヘシ

第五十三條 他ノ徵募區ニ寄留シ其ノ地ニ於テ身體檢査ヲ受ケンコトヲ冀望スル者ハ三月一日迄ニ本籍地ノ島司郡市長ニ届出ヘシ

島司郡長ニ差出ス願書ニハ町村長ノ奥書證書ヲ受クヘキモノトス

島司郡市長其ノ願ヲ許可シタルトキハ之ヲ本人寄留地ノ島司郡市長ニ通知スヘシ
本條ノ願出己ムヲ得サル事故ノ爲メ三月一日ヲ過クルモノハ島司郡市長ヨリ本人寄留地ノ島司郡市長ニ協議シ徵募上故障ナキモノニ限り許可スヘシ

第五十四條 徵兵令第二十二條ニ當ル者ハ同徵募區内其ノ年ノ徵集ニ應スヘキ壯丁ノ戶主二名ノ保證書ヲ添ヘ三月一日迄ニ三月一日後抽籤迄ニ事故ノ生聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ニ届出ヘシ但其ノ事故二年以上繼續スル者ハ毎年届出テ其ノ三箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサル者ハ本文ノ保證書ヲ添ヘ届出ヘシ

前項ノ願書及届書ニハ町村長ノ奥書證印ヲ受クヘキモノトス

第五十五條 徵兵令第二十三條第一項ニ當ル者ハ學校長ノ證明書同條第二項ニ當ル者ハ公使領事又ハ貿易事務官ノ證明書ヲ添ヘ三月一日迄ニ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ニ願出ヘシ

公使領事及貿易事務官ヲ置カサル國ニ在ル者ハ其ノ徵集猶豫願書ニ海外旅券ヲ受取リタル官廳ノ證明書ヲ添ヘ差出スヘシ

公使領事及貿易事務官ヲ置キタル國ニ在ル者ト雖徵集猶豫ノ願ヲ差出ストキ未タ公使領事又ハ貿易事務官ノ證明書ヲ得サルトキハ之ニ換フルニ海外旅券ヲ受取リタル官廳ノ承認書ヲ添ヘ差出シ置キ追テ證明書ヲ差出スコトヲ得

本條ノ願書ニハ町村長ノ奥書證印ヲ受クヘキモノトス

第五十六條 明治二十八年勅令第百二十六號第二條ニ當ル者ハ其ノ移住ノ年月日及生業ノ狀況ヲ詳記シ毎年三月一日迄ニ聯隊區徵兵官ニ願出ヘシ

前項ノ願書ニハ町村長ノ奥書證印ヲ受クヘキモノトス

第五十七條 徵兵令第二十三條第一項ノ事故止ミタル者ノ届書及同條第二項ノ歸朝

シタル者ノ届書ハ町村長ヨリ其ノ年ノ壯丁名簿進達前ニ在テハ其ノ名簿ト共ニ進

達後ニ在テハ受領ノ日ヨリ三日以内ニ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ニ差出スヘシ

市長ハ前項ノ届書ヲ聯隊區徵兵署若クハ聯隊區聯合徵兵署開設ノトキ同署ニ提出スヘシ

第五十八條 疾病傷痕或ハ犯罪等ニテ身體検査ヲ受ケ難キ者及一年志願兵^{年齢十九}者ヲ

除ク 出願中ノ者ハ書面ヲ以テ検査當日迄ニ島司郡市長ニ届出ヘシ其ノ疾病傷痕ノ者ハ醫師ノ診斷證書ヲ添フヘシ

島司郡長ニ差出ス届書ニハ町村長ノ奥書證印ヲ受クヘキモノトス

本條ヲ届出ヲ爲ササル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第五十九條 疾病傷痕或ハ犯罪等ニテ期限ニ際シ入營シ難キ者ハ書面ヲ以テ入營當日迄ニ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ届出ヘシ其ノ疾病傷痕ノ者ハ醫師ノ診斷

證書ヲ添フヘシ其ノ屆書ニハ市町村長ノ與書證印ヲ受クヘキモノトス
本條ノ屆出ヲ爲ササル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第六十條 徵兵署ノ諸費、壯丁及抽籤總代人ノ旅費、現役兵入營ノ旅費、徵兵參事員ノ手當金、旅費、徵兵醫官補助員ノ給料、旅費ハ官給ス

第六十一條 第七師團ノ兵員ハ其ノ師管內徵兵令施行地ヨリ徵集ス但要員ヲ充シ能ハサルトキハ他ノ師管ヨリ其ノ不足ヲ補充スルコトヲ得

第六十二條 島嶼ニ於テ本條例中ノ條規ヲ實施スルコト能ハサルトキハ師團長、地方長官協議ノ上適宜ノ方法ヲ設クルコトヲ得

第六十三條 徵兵令ヲ施行セサル地ニ寄留ノ者ハ寄留地最寄ノ徵募區ニ於テ身體檢査ヲ受クルコトヲ得其ノ願出手續及取扱ハ第五十三條ノ例ニ準ス

第六十四條 徵兵令ヲ施行セサル地ヨリ施行ノ地ニ轉籍シタル者ハ其ノ年又ハ翌年ノ徵集ニ應セシム但年齡二十六歳ヲ過キ轉籍シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

附則

第六十五條 近衛師團ノ兵員ハ當分第一師管ヨリ徵集ス

第六十六條 聯隊區徵兵參事員又ハ警備隊區徵兵參事員ハ未タ郡制ヲ施行セサル郡ニ在テハ其ノ郡內ニ於テ四名ヲ選舉シ當選ノ者ヲ以テ之ニ充ツ其ノ選舉人被選舉人資格、選舉ノ方法及任期ハ總テ府縣會議員ノ例ニ依ル

第六十七條 本條例ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

徵兵事務條例終

徵兵事務條例施行細則

陸軍省令第十號 (明治二十九年四月二十三日)

徵兵事務條例施行細則

第一條 條例第二十一條ノ壯丁名簿ハ附錄第一様式ニ依リ之ヲ作リ一市東京市京都市大阪市及北海道ノ區ニ在テハ區以下同シ一町村ヲ一冊ト爲シ冊尾ニ其ノ人員ノ總計ヲ記シ市町村長東京市京都市ヲ實施セサル地方ニ在テハ戶長以下同シ之ニ署名押印スヘシ

第二條 徵兵令第八條第二十五條但書及明治二十八年勅令第百二十六號第三條ニ當ル者ハ市町村長之ヲ調査シ人名書各事項ヲ頭書スヲ作リ壯丁名簿ニ添附スヘシ

第三條 條例第二十三條ノ聯隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署開設日割ヲ定ムル爲メ島司郡市長ハ壯丁名簿及前年假決ノ諸名簿ヲ調査シ其ノ人員ヲ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ通知スヘシ

第四條 聯隊區徵兵署及警備隊區徵兵署ハ島司郡市長ニ於テ聯隊區聯合徵兵署ハ府ノ書記官ニ於テ適當ノ家屋ヲ撰定シ要スレハ吏員ヲ派シテ豫メ準備シ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官到著ノ上之ヲ開設スヘシ

一 徵募區ニ二箇所以上聯隊區徵兵署ヲ設ケントスルトキハ聯隊區徵兵官豫メ師管徵兵官ノ認可ヲ受ケ一箇所概テ壯丁百五十人以上北海道ニ在テハ概テ七十人ヲ召集スヘキ地ニ設クヘシ

第五條 聯隊區徵兵署警備隊區徵兵署開設日割既ニ定マルトキハ島司郡市長ハ其ノ徵募區又ハ檢査區内ニ於テ毎日檢査ヲ受クヘキ壯丁ノ順序ヲ定メ之ヲ壯丁ニ達シ當日ニ至レハ市町村吏員ヲシテ壯丁ヲ引纏メ徵兵署ニ出頭セシムヘシ

第六條 身體檢査ヲ行フトキハ島廳郡市書記ハ壯丁ヲ呼出シ軍醫ハ徵兵檢査規則ニ依リ身體ヲ檢査シ體格ノ等位其ノ他所要ノ件ヲ壯丁名簿 前年ノ假決名簿中檢査ヲ受クヘキ者ノ名簿ヲ含有スニ記入シ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ差出スヘシ

第七條 身體檢査ヲ行フニ當リ壯丁ヲシテ裸體ナラシムルトキハ勉メテ別室若クハ隔障内ニ於テスヘシ

第八條 身體檢査終ルノ後聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ハ籤丁ヲシテ抽籤總代人ヲ選ハシムヘシ

第九條 徵兵令第二十條第二十一條第二十二條ニ依リ徵集延期ニ屬スル者徵兵令第二十三條及明治二十八年勅令第二百二十六號第二條ニ依リ徵集猶豫ニ屬スル者並ニ徵兵令第十九條ニ依リ兵役免除ニ屬スル者ニハ聯隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ニ於テ附錄第二第三樣式ニ依リ徵集延期證書徵集猶豫證書兵役免除證書ヲ作り市ハ市長ヨリ本人ニ付與シ郡又ハ島嶼ニ在テハ町村長ヲシテ本人ニ付與セシムヘシ

徵集免除ニ屬シ國民兵役ニ服スル者ニハ前項ノ例ニ依リ本人ニ達スヘシ

第十條 徵兵令第二十二條ノ願ヲ許可セサル者及同條ノ事故繼續シテ三箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサル旨届出タル者ニシテ徵集免除ニ屬セサル者ニハ其ノ裁決書ヲ市ハ市長ヨリ本人ニ付與シ郡又ハ島嶼ニ在テハ町村長ヲシテ本人ニ付與セシムヘシ

明治二十八年勅令第二百二十六號第二條ノ願ヲ許可セサル者亦同シ

第十一條 陸軍兵ニ編入スヘキ者ハ左ノ項目ニ依リ之ヲ選フヘシ

- 一 歩兵ハ身體強健ニシテ能ク勞力及遠足ニ堪ユル者
- 二 騎兵ハ成ルヘク馬匹ノ使用ニ慣レ體格ハ輕捷ニシテ筋肉肥滿ニ過キサル者

- 三 砲兵ハ體力強大ニシテ視力清明ナル者
 - 四 工兵ハ成ルヘク工兵ノ作業ニ適當シ膂力アル者
 - 五 輜重兵砲兵輸卒及輜重輸卒ハ成ルヘク馬匹ノ使用ニ慣レ且膂力アル者
 - 六 砲兵助卒ハ身體強健ニシテ膂力アル者
 - 七 職工ハ成ルヘク其ノ職ニ從事セシ者
- 第十二條 海軍兵ニ編入スヘキ者ハ左ノ項目ニ依リ之ヲ選フヘシ
- 一 水兵ハ成ルヘク帆、錨、舵、櫓等ノ使用ニ慣レタル者
 - 二 機艦兵ハ成ルヘク汽機汽罐ノ取扱又ハ火焚ノ業ニ慣レタル者
 - 三 軍樂生ハ齒列齊正ニシテ且指節ノ強剛ナラサル者
 - 四 木工及鍛冶ハ成ルヘク其ノ職業ニ慣レタル者
 - 五 看護ハ成ルヘク患者ノ取扱ニ慣レタル者
 - 六 主廚ハ成ルヘク割烹ノ職ニ慣レタル者

第十三條 條例第二十七條ノ諸名簿ハ種類ヲ分テ之ヲ編綴シ冊尾ニ聯隊區徵兵官又

ハ警備隊區徵兵官署名押印スヘシ

公權停止中若クハ逃亡失踪等ノ爲メ其ノ年徵集スルコト能ハサル壯丁ハ徵集延期名簿ニ一年志願兵出願中及認可ヲ受ケタル者六週間現役ニ服スヘキ者ハ徵集猶豫名簿ニ編入シ各假決ノ區畫ニ其ノ事由ヲ記スルモノトス

第十四條 聯隊區ニ於テ歩兵ノ配賦人員ヲ充スコト能ハサルトキハ聯隊區司令官ヨリ之ヲ師團長ニ具狀シ師團長ハ師管内他ノ各聯隊區ニ配賦スヘシ其ノ配賦ハ壯丁ノ總數ヲ率トシ比例ヲ以テ之ヲ定ムルモノトス

師管内ニ於テ要員ヲ充タシ能ハサルトキハ師團長ハ陸軍大臣ニ具狀スヘシ

第十五條 徵兵令第二十三條ニ依リ徵集猶豫ニ屬スル者ハ身體檢査ヲ行ハス

明治二十八年勅令第百二十六號第二條ニ依リ徵集猶豫ニ屬スル者ハ初年及徵集ニ應スヘキ年ノ外身體檢査ヲ行ハス

第十六條 疾病傷痍ノ爲メ身體檢査ニ出頭セサル者ハ時宜ニ由リ其ノ家ニ就キ檢査スヘシ

第十七條 抽籤施行ニ先タテ聯隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署若クハ聯隊區聯合徵兵署ニ於テ合格者ノ人員ヲ調査シ兵種及甲乙兩種ニ分テ籤札ヲ作ルヘシ
籤ノ番號ハ甲乙兩種各合格者ノ數ニ應シ第一番ヨリ起ヌヲ例トス然レトモ抽籤ノ列ニ加ヘサル者アルトキハ現役ニ編入スルノ順序ヲ定ムル爲メ之ニ首位ノ番號ヲ附著シ其ノ次番號ヨリ籤番號ヲ起ヌヘシ
第十八條 籤札ハ附錄第四樣式ニ依リ之ヲ作り籤箱ニ納レ之ヲ封鎖シ徵兵官徵兵參事員列席ノ前ニ置キ其ノ封ヲ披キ徵兵署事務員籤丁名簿ノ順序ニ氏名ヲ呼ヒ抽籤總代人ニ之ヲ抽カシム

第十九條 條例第二十九條ノ抽籤名簿ハ附錄第五樣式ニ依リ之ヲ作り冊尾ニ徵兵官署名押印スヘシ

第二十條 抽籤總代人ハ抽ク所ノ番號ヲ高聲ニ呼ヒ其ノ籤札ヲ徵兵署事務員ニ渡シ徵兵署事務員ハ之ヲ籤丁名簿氏名ノ頭ニ貼附シ徵兵署印章ヲ以テ割印ヲ爲シ一人毎ニ之ヲ截テ切リ總代人ニ交付スヘシ

第二十一條 壯丁中體格甲種ニシテ抽籤ノ法ニ依ラス現役ニ服センコトヲ志願スル者アルトキハ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ハ本人ノ身元ヲ調査シ確實ト認ムル者ハ之ヲ許可スルコトヲ得

第二十二條 現役兵及補充兵ノ編入順序ハ左ノ如シ

- 一 甲種合格者ニシテ徵兵令第二十八條ニ當ル者 二人以上ナルトキハ年齢ノ順序ニ從テ第二項第三項第四項第六項第七項第八項亦同シ
- 二 甲種合格者ニシテ徵兵令第十三條第五項及第二十三條ニ當リ抽籤ノ法ニ依ラスシテ徵集スル者
- 三 甲種合格者ニシテ徵兵令第二十七條ニ當リ徵集スル者
- 四 甲種合格者ニシテ現役志願ノ者
- 五 甲種合格者ニシテ抽籤ノ者 番號ノ順序ニ從テ第九項亦同シ
- 六 乙種合格者ニシテ徵兵令第二十八條ニ當ル者
- 七 乙種合格者ニシテ徵兵令第十三條第五項及第二十三條ニ當リ抽籤ノ法ニ依ラ

スシテ徵集スル者

八 乙種合格者ニシテ徵兵令第二十七條ニ當リ徵集スル者

九 乙種合格者ニシテ抽籤ノ者

第二十三條 聯隊區司令官又ハ警備隊司令官條例第三十一條ノ處分ヲ爲シタルトキハ附錄第六様式ニ依リ現役兵證書及補充兵證書ヲ作り市ハ市長ヲ經テ本人ニ付與シ郡又ハ島嶼ニ在テハ島司郡長及町村長ヲ經テ本人ニ付與スヘシ但東京市京都市大阪市ニ在テハ府ノ書記官及區長ヲ經テ付與スヘシ

要員超過ノ爲メ國民兵役ニ服スル者ニハ前項ノ例ニ依リ其ノ由ヲ本人ニ達スヘシ

第二十四條 條例第三十一條ノ諸名簿ハ種類ヲ分テ編綴シ冊尾ニ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官署名押印スヘシ

第二十五條 條例第三十四條ノ徵兵表ハ附錄第七様式ニ準シ之ヲ作ルヘシ

第二十六條 壯丁名簿進達前市ニ在テ他ノ市町村ニ轉籍スル者アルトキハ市町村長ヨリ本人徵兵適齡屆書ヲ添ヘ轉籍地ノ市町村長ニ通知スヘシハ調製前

第二十七條 壯丁名簿進達後抽籤前名簿ニ關スル異動ヲ生シタル者若クハ他ノ市町村ヨリ入籍シタル者アルトキハ町村長之ヲ島司郡長ニ報告シ島司郡長ハ其ノ名簿ヲ訂正加除スヘシ但市ニ在テ壯丁名簿調製後抽籤前本條ニ當ル者アルトキハ市長之ヲ訂正加除スヘシ

第二十八條 現役兵入營前及補充兵補充兵證書付與後其ノ年十一月三十日以前ノ者ノ名簿ニ關スル異動轉籍ヲ除クヲ生シタルトキハ町村長之ヲ島司郡長ニ報告シ島司郡長ハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ通知スヘシ

市ニ在テ前項ノ異動ハ市長之ヲ聯隊區司令官ニ通知スヘシ但東京市京都市大阪市ニ在テハ區長ヨリ府ノ書記官ニモ通知スヘシ

第二十九條 壯丁名簿受領後市ニ在テ抽籤前徵募區外ニ轉籍スル者アルトキハ島司郡市長ヨリ壯丁名簿若クハ條例第二十七條ノ名簿ヲ添ヘ轉籍地ノ島司又ハ郡市長ニ通知スヘシ

其ノ異動轉籍地ノ抽籤後ニ係ルトキハ次年ニ於テ假決若クハ終決ノ處分ヲ爲スヘシ

第三十條 抽籤後徵集延期徵集猶豫若クハ入營延期翌年回ト爲リタル者ノ名簿ニ關スル異動ヲ生スル者アルトキハ町村長之ヲ島司郡長ニ報告シ島司郡長ハ其ノ名簿ヲ訂正加除スヘシ但市ニ在テハ市長之ヲ訂正加除スヘシ其ノ徵募區外又ハ檢査區外ニ轉籍スル者ハ島司郡市長ヨリ前項ノ名簿ヲ添ヘ轉籍地ノ島司又ハ郡市長ニ通知スヘシ

第三十一條 徵兵令第十三條第五項及條例第六十四條ニ當ル者アルトキハ町村長ハ戶籍ニ基キ壯丁名簿ヲ作リ島司又ハ郡長ニ差出シ市ニ在テハ市長其ノ名簿ヲ作ルヘシ

第三十二條 現役兵入營ノ期ニ先タチ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ入營地若クハ海軍入營兵集地ニ到ル日數ヲ量リ召集ノ場所及日時ヲ定メ島司郡市長及町村長ヲ經テ之ヲ各自ニ達スヘシ

聯隊區外又ハ警備隊區外ニ轉籍シタル者ニ在テハ舊住地聯隊區司令官又ハ警備隊

司令官ヨリ其ノ召集ノ場所及日時ヲ新住地聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ通知シ新住地聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ前項ノ例ニ依リ之ヲ各自ニ達スヘシ

第三十三條 條例第四十三條ノ入營兵引率員及海軍入營兵受領員ハ左ノ如シ

陸軍入營兵引率員

入營兵三十人迄

聯隊區書記一名

入營兵三十一人以上百人迄

聯隊區書記一名上等兵一名若クハ二名

入營兵百人以上二百人迄

聯隊區副官一名下士一名上等兵一名乃至三名

但二百人以上三百人迄ハ下士二名上等兵二名乃至四名三百人以上ハ下士

三名上等兵三名乃至五名トス

海軍入營兵引率員

聯隊區書記一名

海軍入營兵受領員

入營兵三十人迄

下士一名

入營兵三十一人以上百人迄

下士一名一等卒一名若クハ二名

入營兵百一人以上二百人迄 尉官一名下士二名一等卒一名乃至三名
但二百一人以上三百人迄ハ下士二名一等卒二名乃至四名三百一人以上ハ下士
三名一等卒三名乃至五名トス

第三十四條 條例第四十三條第二項ノ海軍入營兵集合地ハ左ノ如シ

本郷、佐倉、水戸、麻布聯隊區ハ 東京

橫濱聯隊區ハ 橫須賀

仙臺、福島、山形聯隊區ハ 白河

新發田、柏崎聯隊區ハ 直江津

名古屋、津聯隊區ハ 四日市

豊橋、静岡聯隊區ハ 沼津

大阪、和歌山、福知山、神戸、姫路、岡山聯隊區ハ 神戸又ハ舞鶴

廣島、尾道、山口、濱田聯隊區ハ 吳又ハ廣島

熊本、大村、鹿兒島、宮崎、佐賀聯隊區ハ 佐世保又ハ長崎

札幌、函館、弘前、盛岡、秋田聯隊區ハ 青森又ハ仙臺

金澤、富山、敦賀聯隊區ハ 敦賀又ハ直江津

丸龜、徳島、松山、高知聯隊區ハ 丸龜

小倉、大分、久留米聯隊區ハ 門司

第三十五條 海軍現役兵入營ノ期ニ先タチ海兵團長ニ於テ入營兵集合地ヨリ入營地
ニ到ル日數ヲ量リ集合地到着ノ日割ヲ定メ豫メ之ヲ各聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第三十六條 條例第四十四條ノ入營延期願濟ノ者其ノ他事故不參ノ者アルトキハ入
營兵引率員 聯隊區司令部所在ノ入營地ニ在テハ聯隊區司令官ヨリ各隊長又ハ海軍入營兵受領員ニ其ノ由ヲ
通知スヘシ

第三十七條 條例第四十六條ニ依リ第一補充兵若クハ海軍補充兵ヲ以テ現役兵ノ缺
員ヲ補フニハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ於テ其ノ取扱ヲ爲スヘシ但他人ノ聯
隊區又ハ警備隊區ニ轉籍シタル者ニシテ入營セサル者ノ補缺ハ轉籍地聯隊區司令
官又ハ警備隊司令官ノ通知ヲ得テ其ノ取扱ヲ爲スヘシ

現役兵入營後ノ補缺ハ各隊長又ハ海兵團長ヨリ當該聯隊區司令官ニ通知スルモノトス

第三十八條 入營兵引率員召集地若クハ交附ノ際ニ於テ永久兵役ニ堪ヘ難キ者ト認メタル者アルトキハ一時入營ヲ差止メ其ノ診斷證書ヲ添ヘ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ具申スヘシ

第三十九條 現役兵及補充兵ヨリ現役兵ニ繰上ケタル者ハ島司郡市長ヨリ各自ノ戶籍寫ヲ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ送附シ聯隊區司令官ハ之ヲ各隊長又ハ海兵團長ニ送附スヘシ

第四十條 條例第四十九條及本則第二十八條ニ當ル現役兵入營前ノ異動ハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官 條例第四十九條ノ異動ハ轉籍地ノヨリ各隊長又ハ海兵團長ニ通知スヘシ

第四十一條 現役兵入營前徵集延期若クハ入營延期翌年回ト爲リタル者又ハ兵役免除ト爲リタル者ノ名簿ハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ヨリ島司郡市長ニ送附ス

ヘシ但東京市京都市大阪市ニ在テハ尙府ノ書記官ニ通知スヘシ

前項ノ名簿中入營延期翌年回ト爲リタル者ノ名簿ハ島司郡市長之ヲ徵集延期名簿ニ編入スヘシ

第四十二條 第一補充兵海軍補充兵 補充兵證書付與後條例第四十六條ノ現役兵補缺期限終ル迄ノ者他ノ徵募區ニ轉籍スルトキハ新舊住地徵募區同種補充兵最高ノ抽籤番號ヲ率トシ比例ヲ以テ相當番號ノ上位ニ列セシムヘシ

第四十三條 前條ノ異動ヲ生スル者アルトキハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ヨリ島司郡市長 東京市京都市大阪市ニ在テハ府ノ書記官ニ通知スヘシ但其ノ轉籍聯隊區外又ハ警備隊區外ニ係ルトキハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官其ノ名簿ヲ添ヘ舊住地徵募區ノ同種補充兵最高ノ抽籤番號ヲ轉籍地ノ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ通知スヘシ

第四十四條 現役兵入營前及補充兵ニシテ轉籍シタル者ノ現役兵證書、補充兵證書ハ總テ轉籍地ノ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ於テ訂正スヘシ

第四十五條 現役兵證書、補充兵證書、徵集延期證書、徵集猶豫證書及兵役免除證書

ヲ失ヒ又ハ損傷シタル者ハ更ニ下渡ヲ島司郡市長ニ請求スヘシ

第四十六條 條例第五十條ノ召集ノ命アルトキ之ヲ通報スヘキ者ハ成年以上ノ男子ニ限ル

第四十七條 條例第五十三條ニ依リ寄留地徵募區ニ於テ身體檢査ヲ受クルコトヲ許可シタル旨島司郡市長ヨリ寄留地ノ島司郡市長ニ通知スルニハ之ニ壯丁名簿若クハ前年ノ假決名簿ヲ添フヘシ

寄留地ニ於テ身體檢査終ルトキハ前項ノ名簿ニ檢査ノ結果ヲ記入シ直ニ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ヨリ本籍地ノ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ニ送附スヘシ

第四十八條 條例第五十一條ノ願書ハ附錄第八様式ニ依リ身元證書ハ附錄第九様式ニ依リ合格證書ハ附錄第十様式ニ依リ之ヲ作ルヘシ

附則

第四十九條 第二條中明治二十八年勅令第二百二十六號第三條ニ當ル者ノ人名書ハ明

治二十九年ニ於テハ明治二十八年陸軍省令第三十號第三項ニ依リ作りタル名簿ヲ以テ之ニ換フヘシ

第一様式 (壯丁名簿)

用紙ハ美濃紙半葉

明治二十九年											
明 治 何 年 壯 丁 名 簿											
住 所 府(縣)國郡(市)町村大字	兵 種 番 號	假 決	結 終	體 格	等 位	胸 廓 構 造	胸 廓 構 造	胸 廓 構 造	胸 廓 構 造	胸 廓 構 造	胸 廓 構 造
職 業 分 類	身 分 職 業	氏 名	誕 生	備 考	身 長	視 力	視 力	視 力	視 力	視 力	視 力

曲尺七寸

第一様式

- 一 職業ハ現ニ從事スル所ノ職業ヲ記シ兼業ノ者ハ之ヲ併記ス假令ハ「農兼木工」「商兼鍛工」等ノ如シ但官吏教員醫師神職僧侶ノ類ハ總テ其ノ名稱ヲ身分職業ノ區畫ニ記スヘシ
- 二 兵種番號、假決、終決、體格ノ區畫ニハ聯隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署又ハ聯隊區聯合徵兵署又ハ聯隊區司令部又ハ警備隊司令部ニ於テ其ノ事項ヲ記入スルモノトス
- 三 諸學生ハ其ノ種類ニ依リ備考區畫中ニ醫學學生、獸醫學學生、電信技術生、漢學生、何學校修業或ハ卒業等ヲ併記スヘシ
- 四 備考區畫ニ細則第二十二條第何項ニ該ルコトヲ記入スヘシ
- 五 假決及備考區畫ニ餘白ナキニ至レハ附箋ヲ爲シ記入スヘシ

第二様式 (徵集延期「猶豫」證書)

用紙ハ厚紙

府(縣)郡(市)町(村)

某(長)次(男)兄(弟)本人戸主ナレハ戸主ト記スヘシ

氏名

右徵集ヲ延期(猶豫)ス

表

昭和十一年

年 月 日

何聯隊區徵兵署 圖

凡曲尺五寸

裏

- 一 本證書ハ翌年徵兵假決ノ前日迄其ノ効ヲ有スルモノトス但翌年終決ノ處分ヲ受クヘキモノハ其ノ前日迄學校生徒及外國ニ在ル爲メ徵集猶豫ノ裁決ヲ爲シタル者ハ其ノ事故ノ繼續スル間トス
- 一 此證書ヲ失ヒ若クハ損傷シタルトキハ更ニ下渡ヲ島司郡市長ニ請求スヘシ

- 一 本證書ハ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ニ於テ假決ノ處分ヲ爲シタル者ニ限リ付與スルモノトス
- 二 本證書ハ島應郡市役所ニ於テ調製スヘシ

第二様式

第三様式 (兵役免除證書)

用紙ハ厚紙

表

式目以國ヤ

凡曲尺六寸

右兵役ヲ免ヌ
年 月 日

何聯隊區徵兵署 印

何聯隊區
府(縣)郡(市)町(村)
某「長(次)男」兄(弟) 本人戸主ナレハ
戸主ト記スヘシ
氏 名

此證書ヲ失ヒ若クハ損傷シタルトキハ更ニ下渡ヲ島司郡市長ニ請求スヘシ

裏

本證書用紙ハ島廳郡市役所ニ於テ調製スヘシ

第四様式 (鑑札)

用紙ハ厚紙

甲(乙)種 何兵 第何番

鑑札用紙ハ東京市京都市大都市ニ在テハ府廳ニ於テ
其ノ他ニ在テハ島廳郡市役所ニ於テ調製スヘシ

裏

一 現役兵ノ入營期日ハ十二月一日トス
 一 警備隊諸兵ノ入營期日ハ第一期ハ十二月一日第二期ハ六月一日トス
 一 砲兵輸卒ノ入營期日ハ第一期ハ十二月一日第二期ハ四月一日第三期ハ八月一日トス
 一 輜重輸卒ノ入營期日ハ第一期ハ十二月一日第二期ハ三月一日第三期ハ六月一日第四期ハ九月一日トス
 一 第一補充兵及海軍補充兵ハ現役兵ノ補缺トシテ召集セラレ又戰時若クハ事變ニ際シ召集セララルモノトス但第一補充兵ニシテ現役兵ノ補缺トシテ召集セララルハ其ノ服役ノ初年ニ限ル
 一 第一補充兵ハ平常ニ在テ教育ノ爲メ百五十日以内召集セラレ又毎年一回勤務演習ノ爲メ六十日以内召集セラレ且簡閱點呼ヲ受クルモノトス
 一 第二補充兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ第一補充兵ヲ召集シ仍ホ兵員ヲ要スルトキ召集セララルモノトス
 一 疾病傷痕或ハ犯罪等ニテ入營シ難キ者ハ市町村長ノ與書證明ヲ受タル書面ノ疾病傷痕ノ者ハ醫師ヲ以テ入營當日迄ニ聯隊區司令官(警備隊司令官)ニ届出ヘシ但町村ニ在テハ島司郡長ヲ經由スヘシ其ノ届出ヲ爲ササルトキハ科料ニ處セララルモノトス
 一 入營ニ際シ父母ノ疾病危篤或ハ死亡ノ爲メ入營延期ヲ願ハントスルモノハ市町村長ノ與書證明ヲ受ケタル書面ノ疾病危篤ノ者ハ醫師ヲ以テ聯隊區司令官(警備隊司令官)ニ願出ヘシ
 一 故ナク入營ノ期ニ後レ十日戰時ハナ過クルトキハ禁錮ノ刑ニ處セララルモノトス
 一 轉籍シタルトキハ十四日以内ニ島司郡市長及町村長ヲ經テ聯隊區司令官(警備隊司令官)ニ届出ヘシ其届出ヲ爲ササルトキハ科料ニ處セララルモノトス
 一 寄留若クハ十四日以上ノ旅行ヲ爲サントスルトキハ召集ノ命ヲ通報スヘキ者ヲ定メ島司郡市長及町村長ヲ經テ聯隊區司令官(警備隊司令官)ニ届出ヘシ復歸シタルトキハ亦其ノ由ヲ届出ツヘキモノトス

此ノ届出ヲ爲ササル者及通報人正當ノ事由ナクシテ召集ノ命ヲ通報セス若クハ遅緩シタルトキハ科料ニ處セララルモノトス但補充兵服役中ノ通報人ニ在テハ拘留ニ處セララルモノトス
 一 此ノ證書ハ現役兵ハ入營迄補充兵ハ服役中其ノ效ヲ有スルモノトス
 一 此ノ證書ヲ失ヒ若クハ損傷シタルトキハ更ニ下渡ヲ島司郡市長ニ請求スヘシ

- 一 表面「右現役兵ニ徵募シ」ノ下近衛兵ニ於テハ「近衛」ノ二字ヲ加ヘ海軍兵ニ在テハ「横須賀(吳)(佐世保)海兵團ニ編入ス」ト記スヘシ
- 二 仙臺札幌弘前金澤ノ衛戍地ニ入營スヘキ砲兵輸卒輜重輸卒ヲ出スヘキ聯隊區ニ在テハ裏面第三項第四項ノ入營期日ハ徵兵事務條例第四十二條第三項ニ依リ記載スヘシ
- 三 本證書用紙ハ聯隊區司令部警備隊司令部ニ於テ調製スヘシ

用紙ハ美濃紙

明治 何年 第何師管徵兵表 其一

種別	隊聯區		計
	年	齡	
近	砲	二十歳	
		二十一歳以上	
		計	
步	兵	二十歳	
		二十一歳以上	
		計	
騎	兵	二十歳	
		二十一歳以上	
		計	
近	砲	二十歳	
		二十一歳以上	
		計	

考 備	人 員	
	海 軍 志 願 兵	計
一現役補充兵ノ區畫中甲種合格者ハ墨書シ乙種合格者ハ朱書スヘシ 一現役中ノ人員區畫中陸軍海軍志願兵ニハ兵籍ニ編入シタル生徒ヲ含有ス 第八様式 (現役志願書)	重罪ノ刑ニ處セラレタル人員	計

現役志願書

私儀徴兵令第十二條ニ依リ現役ニ服シ度候間服役ノ義御許可相成度別紙身元證書 檢査合格證書ヲ添ユル者ハ「身元證書」相添ヘ戸主(後見人)連署ヲ以テ此段奉願候也

府(縣)郡(市)町(村)番地 寄留ノ者ハ寄留地ヲ併記スヘ

年 月 日

本 人

氏

名 印

同

戸主(後見人)

氏

名 印

歩騎(野戰砲)要塞砲(工)輜重(兵)第何聯(大)隊(何海兵團)近衛隊ニ出願スル者ハ兵種ノ上ニ近衛ノ二字ヲ加フヘシ

御 中

第九様式 (身元證書)

身元證書

府(縣)郡(市)町(村)番地華(士)族(平民)

某、長(次)男(兄)弟(弟) 本人戸主ナレハ 戸主ト記スヘシ 氏 名

年 月 日 生

一 戸籍内ノ者

一 妻 某 何某長(次)女 年月日婚姻

一 父 某

一 長(次)男 某 年月日生

一 祖父 某

一 母 某

一 祖母 某

一兄 某 年月日生 一妹 某 年月日生
 一何々々
 一戶主(家族)直接國稅何圓何錢ヲ納ム
 一戶主(家族)家屋ヲ有ス(家屋ヲ有セス)
 一尋常(高等)小學校卒業(何年級迄修業)
 一何學校(塾)ニ於テ何學卒業(何學修業)
 一現今何ノ職業ニ從事ス
 一年月日何ノ賞トシテ何々ヲ受ク
 一刑罰ヲ受ケタルコトナシ(年月何々ノ科ニ依リ何罰ニ處セラル)
 一種痘何回(天然痘)
 右ノ通相違無之候也

本人 氏 名 印
 戶主(後見人) 氏 名 印
 前書ノ通相違無之候也
 年月日 何市(區)(町)(村)長 氏 名 印

第十樣式 (合格證書) 用紙ハ聯隊區(警備隊區)司令部款名美濃野紙

府(縣)何族(平民)
 徵兵令第十二條現役志願書 氏 名
 一身長何尺何寸何分
 一體格合格
 一何兵ニ適當
 右檢査合格ニ付此證書ヲ付與ス
 年月日 何聯隊區司令官 氏 名 印
 陸軍何等軍醫 氏 名 印

徵兵事務條例施行細則終

●勅令第十三號

(明治二十八年一月二十五日)

國民軍條例

第一條 國民軍ハ陸軍ニ屬シ主トシテ衛戍若クハ邊境ノ警備ニ充ツ

第二條 國民軍ハ國民兵ヲ以テ之ヲ編制ス

第三條 國民軍ノ召集及解散ハ勅令ニ依リ師團長之ヲ行フ戒嚴ヲ宣告シ得ルノ權アル司令官時機切迫シテ通信斷絶シ命ヲ請フノ途ナキトキハ直ニ召集ヲ行フコトヲ得

第四條 國民軍幹部ハ必要ニ應シ現役豫備後備ノ陸軍將校、同相當官、准士官、下士ヲ以テ充ツルノ外左ニ掲クル者ヨリ撰拔シテ之ニ充ツ

一 退役ノ陸軍將校、同相當官、准士官ニシテ國民兵役ニ在ル者若クハ國民軍編入志願ノ者

二 元陸軍下士上等兵ニシテ國民兵役ニ在ル者若クハ國民軍編入志願ノ者

三 國民兵中材幹技能アル者

第五條 陸軍後備兵ニシテ後備軍召集ニ加ハラサル者ハ特ニ國民軍ニ編入スルコト

ヲ得

第六條 第四條第二第三ニ當ル者ノ任官ハ陸軍武官官等表ニ依リ士官以上ハ師團長ノ具狀ニ由リ陸軍大臣之ヲ奏薦宣行シ其ノ他ハ師團長ノ認可ヲ得テ聯隊長ハ同等以上ノ權アル長官之ヲ行フ

第三條第二項ニ依リ召集ヲ行ヒタル司令官ハ召集員ニ士官以上ノ勤務ヲ命スルコトヲ得其ノ勤務ヲ命セラレタル者ノ身分取扱ハ其ノ官職ヲ有スル者ニ準ス

前項ノ司令官師團長ニアラサルトキハ准士官以下ノ任官ニ付師團長ト同一ノ權ヲ有ス

第七條 國民軍幹部ノ進級ハ拔擢トス其ノ任官ハ前條ノ例ニ依ル

第八條 國民軍編製ノ爲メ召集セラレタル者及志願ニ依リ國民軍ニ編入セラレタル者ハ其ノ間現役ニ準ス

第九條 第四條第二第三ニ該リ任官シタル者解散ノトキハ准士官以上ハ之ヲ退役トシ下士ハ其ノ官ヲ免ス

●陸軍省令第二十五條

(明治二十九年十二月五日)

國民軍條例第四條ニ依リ國民軍編入志願者ノ願出ニ關スル規程左ノ通定ム

- 一 國民兵役ニ在ラサル退役陸軍將校同相當官准士官及元陸軍下士上等兵看護手ニシテ國民軍編入志願ノ者ハ編入年限ヲ定メテ願出ヘシ又數次此ノ願出ヲ爲スコトヲ得其ノ年限ハ四月一日ヨリ起算スルモノトス
- 二 退役陸軍將校同相當官准士官ニ在テハ町村長郡長又ハ市長及本籍地所管聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ヲ經テ師團長ニ願出ヘシ
- 三 元陸軍下士上等兵及看護手ニ在テハ町村長郡長又ハ市長ヲ經テ本籍地所管聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ願出ヘシ
- 四 前二項ノ願書ニハ住所生年月日及將校同相當官ニ在テハ元職、元下士ニ在テハ元官元職、元上等兵看護手ニ在テハ各其ノ等級ヲ記スヘシ
- 五 第二項又ハ第三項ニ依リ願出ル者アルトキハ師團長又ハ聯隊區司令官若クハ警

備隊司令官ニ於テ所要ノ調査ヲ爲シ適當ト認ムル者ハ之ヲ許可シ其ノ名簿ヲ作
リ當該司令部ニ備フヘシ

六 本令中郡長トアルハ島司、町村長トアルハ戸長及之ニ準スヘキ者ヲ包含シ市長
トアルハ東京市京都市大阪市及市制町村制ヲ施行セサル地方ノ區ニ在テハ區長
ニ該當ス

●陸軍省令第二十七號 (明治二十八年十一月二十八日)

陸軍補充兵召集規則

第一章 總則

第一條 戰時若クハ時變ニ際シ又ハ平時ニ於テ勤務演習簡閱點呼等ノ爲メ召集スル
ノ方法及其ノ解散ノ取扱ハ本則中特ニ規定セルモノ、外豫備後備兵召集及解散ノ
例ニ依ル

第二條 教育ノ爲第一補充兵ヲ召集スルハ其服役ノ初年ニ於テスルヲ例トス

第三條 本則ニ據リ召集ニ應スル者ノ旅費ハ陸軍召集旅費支出規程第八條ニ定ムル

出納官吏ニ就キ受領スヘシ

第二章 戰時若クハ事變ニ於ケル召集

第四條 第一補充兵召集令狀ヲ領收シタルトキハ二十四時以内ニ旅費ヲ受領シ其時
間内ニ出發シ召集地參着ノ上ハ大隊區司令官警備隊區ニ在テハ警備
隊區司令官以下全シ又ハ同司令部
出張員ニ届出ツヘシ但正當ノ事故ニテ二十四時ヲ經過シタルトキハ其事由ヲ届出
ツヘシ

召集途中一日ノ行程ハ瀛車路ハ二百哩海路ハ百海里陸路ハ十二里詰ヲ以テ最下限
トス

第五條 近衛師團ノ召集ニ應スヘキ第一補充兵召集令狀ヲ領收シタルトキハ旅費ヲ
受領シ指定ノ期日ニ近衛兵集合地ニ參着シ大隊區司令官又ハ同司令部出張員ニ届
出ツヘシ

第六條 第二補充兵ヲ召集スルニハ東京、京都、大阪ノ
三市ニ在ツテハ區郡市島應吏員ヲシテ召集地又
ハ近衛兵集合地迄引率セシムルモノトス

第七條 第二補充兵召集令狀ヲ領收シタルトキハ旅費ヲ受領シ指定ノ期日ニ其場所ニ參着シ前條ノ引率員ニ届出ツヘシ

第八條 補充兵疾病其他ノ事故ニ由リ召集ニ應シ難キトキハ本人或ハ戸主若クハ其家族ヨリ二十四時間以内ニ町村長ノ與書證印ヲ以テ監視區長ニ届出ツヘシ但疾病傷痕ノ者ハ醫師ノ診斷書其ノ他ノ者ハ憲兵或ハ警察官ノ承認書ヲ添フヘシ

第九條 召集ニ應スヘキ補充兵前條ノ事故止ミタルトキハ二十四時間以内ニ本人或ハ戸主若クハ其ノ家族ヨリ町村長ヲ經テ監視區長ニ届出ツヘシ

第十條 第八條第九條ニ違背シタル者ハ五十錢以上壹圓九十五錢以下ノ科料ニ處シ又ハ五日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第三章 平時ニ於ケル召集

第十一條 教育ノ爲メ第一補充兵ヲ召集スルニハ先ツ大隊區司令部所在地若クハ便宜ノ地ニ集合シ大隊區司令部員若クハ其ノ他ノ下士兵卒ヲシテ召集地ニ引率セシムルモノトス但召集員五人未滿ナルトキハ單行セシム

第十二條 教育ノ爲メ第一補充兵ヲ召集スルトキハ師團長近衛師團長ヲ除ク其ノ召集期日及日數ヲ地方長官ニ通知シ大隊區司令官ニ達スヘシ

第十三條 地方長官前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ管内ニ告示スヘシ

第十四條 大隊區司令官第十二條ノ達ヲ受ケタルトキハ集合地及集合期日ヲ郡市長東京、京都、大阪ノ三市ニ在ラハ區長島司ニ通知シ郡市長島司ハ町村長、戸長ヲ經テ之ヲ本人ニ達スヘシ

第十五條 第一補充兵教育ノ爲メ召集ノ達ヲ受ケタルトキハ旅費ヲ受領シ指定ノ期日ニ其ノ場所ニ參着シ第十一條ノ引率員ニ届出ツヘシ

第十六條 第一補充兵演習令狀ヲ領收シタルトキハ旅費ヲ受領シ其令狀ニ記載スル期日ニ其場所ニ參着シ大隊區司令官又ハ同司令部出張員ニ届出ツヘシ

第十七條 第一補充兵點呼令狀ヲ領收シタルトキハ其ノ令狀ニ記載スル期日ニ其場所ニ參集シ監視區長ニ届出ツヘシ但點呼ノ場所ニ往復ノ旅費ハ自辨トス

第十八條 第一補充兵疾病其ノ他ノ事故ニ由リ召集ニ應シ難キトキハ本人或ハ戸主

若クハ其ノ家族ヨリ召集期日迄ニ點呼ノトキハ其ノ當日第八條ノ例ニ依リ監視區長ニ届出ツヘシ

前條ニ違背シタル者ハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第十九條 第一補充兵疾病其ノ他ノ事故ニ由リ第十四條ノ召集ニ應セサル者ハ翌年之ヲ召集ス

第四章 雜則

第二十條 第二補充兵召集令狀裏面ノ記載方ハ陸軍召集條例第一様式其ノ二裏面ノ例ニ依ル

第二十一條 戰時若クハ事變ニ際シ近衛師團ニ召集スヘキ補充兵ハ町村長豫メ之ヲ本人ニ告知スヘシ

第二十二條 本則施行ニ關スル細則ハ師團司令部及地方廳ニ於テ規定スヘシ
附則

第二十三條 明治廿八年徵募ノ第一補充兵ニ限り第二條ヲ適用ス

●陸軍省令第三號 (明治二十五年三月十八日)

徵兵検査規則

第一條 徵兵検査ハ徵兵令ニ據リ兵役ニ服スヘキモノ、體格ヲ検査シ其適否ヲ定ムルモノトス

此検査ハ學術上諸種ノ方法ヲ施スコトヲ得

第二條 左ノ疾病畸形ノ者ハ不合格トス

- 一 惡性腫瘍
- 二 骨軟化、佝僂病
- 三 象皮腫、癩
- 四 動脈瘤
- 五 癩洞
- 六 白痴

徵兵検査規則

- 七 癲狂
- 八 夜盲
- 九 盲
- 十 耳鼓若クハ鼻ノ全缺スルモノ
- 十一 聾
- 十二 啞
- 十三 唇、齒牙、口内ノ疾病ニシテ官能ニ大ナル妨アルモノ
- 十四 食道狭窄
- 十五 脊梁、骨盤ノ畸形ニシテ運動ニ大ナル妨アルモノ
- 十六 歇兒尼亞
- 十七 關節畸形
- 十八 習癖脱臼
- 十九 支肢ノ短縮、彎曲

- 二十 指節ノ強剛ニシテ把握ニ大ナル妨アルモノ
- 二十一 拇指若クハ示指若クハ二指以上ヲ失シタルモノ
- 二十二 蹠足
- 二十三 第一趾ヲ失シタルモノ若クハ三趾以上ヲ失シタルモノ

前項ノ疾病畸形中輕症ニシテ服役シ得ヘキ者ハ合格トシ爾餘ノ疾病畸形ト雖モ服役シ得ヘカラサル者ハ不合格トス

第三條 徵兵體格ノ等位ヲ區別スル左ノ如シ

- 一 甲種 身長五尺以上ニシテ身体強健ナルモノ
- 二 乙種 身長五尺以上ニシテ身体甲種ニ亞クモノ
- 三 丙種 身長五尺以上ニシテ身体乙種ニ亞クモノ及身長五尺未滿四尺八寸以上ニシテ丁種戊種ニ當ラサルモノ
- 四 丁種 第二條ニ當ルモノ及身長四尺八寸ニ滿タサルモノ
- 五 戊種 徵兵令第十八條第一項第二項ニ當ルモノ

第四條 第三條ノ甲種乙種丙種ヲ合格トシ其甲種乙種ハ現役ニ徴スヘキモノ丙種ハ國民兵役ニ置クモノトシ丁種ヲ不合格戊種ヲ徵集延期トス

●大藏省令第十七號 (明治二十年十二月十六日)

徴兵旅費定則

第一條 徴兵旅費ハ検査及入營ノ二種トス片道三里以上ノ旅行ヨリ之ヲ支給ス
検査旅費ハ檢丁呼出ニ係ル檢丁ノ父兄廢疾不具者ニ同伴シタル保護人及抽籤人検査所又ハ抽籤場ヘ往復ノ旅費トス
入營旅費ハ新兵入營ノ旅費トス

第二條 検査旅費ハ一里ニ付金貳錢五厘入營旅費ハ同金四錢ノ割ヲ以テ支給ス但一里未滿ノ端里數ハ切捨トス官ノ都合ニヨリ特ニ滞在ヲ命シタル片検査旅費ニ在テハ金貳拾貳錢入營旅費ニ在テハ金貳拾八錢ノ滞在日當ヲ支給ス
官ノ都合ニヨリ特ニ滞在ヲ命シタルニアラスト雖モ川留雪問ニシテ途中ニ滞在ス

ルトキハ其地戸長ノ證明書ヲ添ヘ請求スルトキハ滞在日當ヲ支給スルコトヲ得

第三條 片道三里未滿ノ旅行ト雖モ島嶼ニ住居シ渡航ニアラサレハ至リ難キトキハ渡航費ノ實費ヲ支給スルコトヲ得

片道三里未滿ノ旅行ト雖モ官ノ都合ニヨリ特ニ宿泊ヲ命シタルトキハ検査旅費ニ在テハ金拾五錢入營旅費ニ在テハ金貳拾錢ノ宿泊料ヲ支給ス

第四條 片道三里以上ノ旅行ニシテ島嶼ニ住居シ渡航ニアラサレハ至リ難キモノ若クハ地勢上渡航又ハ瀛車乗用ヲ便トスルトキハ第二條ニ依ラス其實費瀛車瀛船ハ下等賃タルシテ支給スルコトヲ得本條ノ場合ニ於テハ泊數ニ應シテ前條ノ宿泊料ヲ給ス其陸

行徒歩ト相跨ル日亦之ニ準シ尙陸路里數ニ應シテ別ニ第二條ノ旅費ヲ支給ス

第五條 新兵入營ノ旅行ハ一日十里詰トシ若シ各兵集合上ノ都合ニヨリ其見積行程ヨリ延着セントキハ増日數ニ應シ滞在日當ノ額ヲ支給ス

第六條 檢丁若クハ呼出ニ係ル檢丁ノ父兄廢疾不具ニシテ歩行スル能ハサル者ハ第二條ノ外片道一里以上ヨリ一里ニ付金六錢ノ車駕賃ヲ支給ス但一里未滿ノ端數ハ

切捨トス

第七條 新兵入營途中疾病ニヨリ歩行スル能ハスシテ車駕ヲ乗用シ又ハ滞在シタルトキハ附添吏員ノ證明書及醫師ノ診斷書ヲ添ヘ請求スルトキハ車駕賃ノ實費若クハ滞在日當ヲ支給スルコトヲ得

第八條 新兵ニ附添ヒ營所ニ至ル郡區書記若クハ戶長ノ旅費ハ内國旅費規則ニ依ル第九條 北海道廳長官府縣知事ノ見込ニヨリ本則中ノ給額ヲ減少スルハ適宜タルヘシ

●内務省令第六號 (明治廿二年四月廿四日)

徵兵參事員手當金并旅費支給規則

一手當金ハ府縣郡市島嶼ヲ問ハス出務日數ニ應シ一日金壹圓ヲ支給ス
一旅費ハ左表ノ金額ヲ給ス其支給法ハ明治十九年閣令第十四號内國旅費規則ニ據ル但地方ノ狀況ニ依リ認可ヲ經テ定額ノ旅費ヲ節減スルヲ得

廿四年八月省令第八十六號參看

旅費額

瀛車賃	瀛船賃	車馬賃	日當
一哩毎ニ	一海里毎ニ	一里毎ニ	一日毎ニ
金四錢	金五錢	金拾錢	金七拾錢

●法律第四十五號 (明治二十三年六月二十日)

軍人恩給法

第一章 總則

第一條 陸海軍軍人ニシテ現役ヲ離レタル者ハ此法律ノ規定スル所ニ依リ恩給ヲ受クルノ權利ヲ有ス

第二條 陸海軍軍人恩給ハ左ノ六種トス

- 一 退職恩給
- 二 免除恩給

- 三 増加恩給
- 四 賑恤金
- 五 給助金
- 六 扶助料
- 第三條 退職恩給、免除恩給、増加恩給及寡婦ノ扶助料ハ終身、孤兒ノ扶助料ハ年齢二十歳ニ至ルマテ賑恤金、給助金ハ一時限リ之ヲ給ス

第二章 退職恩給、免除恩給、増加恩給

- 第四條 退職恩給ハ准士官以上左ニ掲クル事項ノ一ニ當ルトキ之ヲ給ス
 - 一 現役十一年以上ニシテ定限ノ年齢ニ達シ又ハ定限ノ年齢ニ達セサルモ傷痕ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ服役ニ堪ヘス退職シタルトキ
 - 二 戦闘及戦時平時ニ拘ハラヌ公務ノ爲メ傷痕ヲ受ケ一肢以上ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキ者ニシテ退職シタルトキ
 - 三 戦地ニ於テ流行病ニ罹リ又ハ戦時平時ニ拘ハラヌ公務ノ爲メ健康ニ有害ナル

感動ヲ受クルヲ願ミルコト能ハスシテ勤務ニ従事シ爲メニ一肢以上ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキ者ニシテ退職シタルトキ

- 四 現役十一年以上ニシテ未タ定限ノ年齢ニ達セスト雖モ休職、停職満期若クハ諭旨ニ依テ退職シタルトキ

第五條 免除恩給ハ下士以下左ニ掲クル事項ノ一ニ當ルトキ之ヲ給ス

- 一 現役十一年以上ニシテ定限ノ年齢ニ達シ又ハ定限ノ年齢ニ達セサルモ服役満期トナリ或ハ傷痕ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ服役ニ堪ヘス免官若クハ現役ヲ免除シタルトキ
- 二 第四條第二又ハ第三ニ由リ免官若クハ現役ヲ免除シタルトキ

第六條 退職恩給、免除恩給年額ハ軍人恩給ヲ受ケヘキ事故ノ生シタルトキノ現官階ト其服役年數トニ從ヒ第一號表若クハ第二號表ニ依テ之ヲ給ス但現役四十年以上ノ者ニ給スヘキ恩給ハ四十年ノ額又十一年未滿ノ者ニ給スヘキ恩給ハ十一年ノ額トス

第七條 軍人現役十一年以上ニシテ文官ニ任シタル者又ハ文官ヲ兼任スル者十五年未滿ニシテ退官退職スルトキハ軍人ノ服役年數ニ對スル恩給ヲ給ス其十五年以上ニシテ退官退職スルトキハ文武官ヲ比較シ恩給年額ノ多キ方ヲ給ス

第八條 退職恩給、免除恩給ヲ受ケタル後再ヒ現役ニ就キ滿一年以上服役シタル者退職又ハ免官若クハ現役ヲ免除シタルトキハ左ノ區別ニ依リ恩給ヲ給ス

一 再ヒ現役ヲ離ル、トキノ現官階當初恩給ヲ受ケタルトキノ官階ト同等ナラサルトキハ前役年數ニ再役年數ヲ通算シ再役ノ官階ニ對スル恩給ト既得ノ恩給トヲ比較シ其多キ方ヲ給ス

二 前後ノ官階同等ナルトキハ再役ノ年數ニ依リ恩給ヲ増加ス但前役十一年未滿ニシテ恩給ヲ受ケタル者ニ在テハ前後通算シテ十二年以上ニ至ラサレハ増加セス

第九條 増加恩給ハ戦闘及戰時平時ニ拘ハラズ公務ノ爲メ傷痕ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ左ニ掲クル事項ノ一ニ當ル者ニ退職恩給、免除恩給ノ外特ニ給スルモノトス

- 一 兩眼ヲ盲シ若クハ二肢以上ヲ亡シタルトキ
 - 二 前項ニ準スヘキ傷痕ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ
 - 三 一肢ヲ亡シ若クハ二肢ノ用ヲ失ヒタルトキ
 - 四 前項ニ準スヘキ傷痕ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ
 - 五 一眼ヲ盲シ若クハ一肢ノ用ヲ失ヒタルトキ
 - 六 前項ニ準スヘキ傷痕ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ
- 第十條 増加恩給ノ年額ハ軍人之ヲ受クヘキ事故ノ生シタルトキノ現官階ニ從ヒ第三號表ニ依リ之ヲ給ス

第十一條 戦闘及戰時平時ニ拘ハラズ公務ノ爲メ傷痕ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ恩給ヲ受ケ又ハ之ヲ受ケスシテ現役ヲ離レタル後重症ニ趨キタル者左ノ期限内ニ檢査ヲ願出ルトキハ策定ノ上相當ノ恩給ヲ給ス

一 一眼ヲ盲シ若クハ一肢ノ用ヲ失フニ至リタル者若クハ之ニ準スヘキ者ハ現役ヲ離レタル日ヨリ二個年

二 一肢ヲ亡シ若クハ二肢ノ用ヲ失ヒ若クハ兩眼ヲ盲シ若クハ二肢以上ヲ亡スルニ至リタル者若クハ之ニ準スヘキ者ハ現役ヲ離レタル日ヨリ三個月

第十二條 傷痍疾病ニ起因シ恩給ヲ請求スル者ハ左ノ書類ニ依リ證明スヘシ

一 傷痍疾病ノ原因ハ現認證書又ハ之ヲ證スル公文ノ寫若クハ口供書

二 傷痍疾病輕重ノ度ハ陸海軍醫官ノ證書若クハ陸海軍醫官ノ查覈ヲ經タル醫師ノ證書

第十三條 退職恩給、免除恩給、増加恩給ノ支給ハ現役ヲ離レタル日ノ翌日ヨリ始マリ死亡ノ月ヲ以テ終ルモノトス

第三章 賑恤金、給助金

第十四條 賑恤金ハ下士以下左ニ掲クル事項ノ一ニ當リ第九條第六ヨリ輕症ニシテ免除恩給ヲ受ケサル者ニ之ヲ給ス

一 戦闘及戰地公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ若クハ第四條第三ニ原由スル疾病ニ罹リ現役ヲ離レタルトキ

二 戰時平時公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ若クハ第四條第三ニ原由スル疾病ニ罹リ現役ヲ離レタルトキ

第十五條 賑恤金ハ之ヲ受クヘキ事故ノ生シタルトキノ現官階ニ應シ前條第一ニ當ル者ハ第三號表第五項ノ一個年分ヨリ少カラス十個年分ヨリ多カラス前條第二ニ

當ル者ハ同表第六項ノ一個年分ヨリ少カラス十個年分ヨリ多カラス金額トス

第十六條 給助金ハ下士以上現役中死歿シ若クハ現役四年以上十一年未滿ニシテ現役ヲ離レ退職恩給、免除恩給ヲ受ケサル者ニ之ヲ給ス其額ハ第四號表ニ依ル

第四章 服役年

第十七條 服役年ノ始期終期ハ左ノ各項ニ依ル

第一 退職恩給、免除恩給ニ係ル服役年ノ始期

一 下士以上ハ初任ノ日陸軍兵卒ヨリ出身ノ下士以上ハ入營ノ日海軍卒ヨリ出身ノ下士以上ハ五等卒トナリタル日但第二十四條第六ニ當リタル者ハ其兵卒トナリタル日

- 二 陸軍兵卒ハ入營ノ日海軍卒ハ五等卒トナリタル日但第二十四條第七ニ當リタル者ハ其刑期滿限ノ翌日
- 三 北海道ニ移住ノ際定規ノ給助ヲ受ケタル屯田兵下士卒ヨリ出身ノ士官以上ハ其士官ニ任シタル日
- 四 陸軍軍人及海軍准士官以上ニシテ明治四年八月以前ヨリ勤仕ノ者ハ同月一日
- 五 海軍下士以下ニシテ明治二年五月一日以前ヨリ勤仕ノ者ハ同月一日
- 第二 給助金ニ係ル服役年ノ始期
 - 一 下士以上初任ノ日
- 第三 服役年ノ終期
 - 一 現役ヲ離レタルノ日
- 第十八條 左ニ掲クル日數ハ服役年ニ通算ス
 - 一 前條ニ掲クル服役年ノ始期ヨリ終期ニ至ルマテノ日數
 - 二 豫備後備ニ在ル者戰時若クハ事變ニ際シ召集シタルトキハ其召集中ノ日數

- 三 海軍軍人轉シテ陸軍軍人トナリタルトキハ海軍服務ノ日數陸軍軍人轉シテ海軍軍人トナリタルトキハ陸軍服務ノ日數
- 四 文官ヨリ轉シテ陸海軍軍人トナリタル者ニ在テハ恩給ヲ受クヘキ最下限ノ期ニ至ルマテハ文官服務中ノ日數四分ノ三
- 五 現役ノ者陸軍見習士官、海軍候補生若クハ陸海軍諸生徒トナリ再ヒ現役ニ就キタルトキハ前後ノ日數
- 六 現役ヲ離レタル後再ヒ現役ニ就キタルトキハ前後ノ日數
- 七 陸軍見習士官、海軍候補生、陸海軍諸生徒、海軍水雷夫及北海道移住ノ際定規ノ給助ヲ受ケタル屯田兵下士卒ニシテ從軍シタルトキハ其日數
- 第十九條 左ニ掲クル日數ハ服役年ヨリ除算ス
 - 一 刑期中及逃走中ノ日數
 - 二 陸軍見習士官、海軍候補生、陸海軍諸生徒中ノ日數但從軍中ノ日數ハ此限リニアラス

- 三 文官奉職中ノ日數ニシテ官吏恩給法ニ依リ除算スヘキ月數
- 四 年齢十七歳未滿ノ日數

第五章 從軍年

第二十條 從軍年ハ現役外ノ年月ト爲シ之ヲ其服役年數ニ加算スルモノトス

第二十一條 從軍年ノ加算ハ左ノ各項ニ依ルヘシ

- 一 外國戰ニ當リ出征軍ニ編入セラレ内國港灣ヲ出發シタルトキハ二個年
- 二 内國戰ニ當リ出征軍ニ編入セラレ戰地ニ臨ミタルトキハ一個年
- 三 臨戰合圍地境內ニ於テ服役シタルトキハ外國ニ在テハ二個年内國ニ在テハ一個年

四 日本國外ノ鎮戍ニ在リタルトキハ一個年

五 出征事件ニ關シ功績アル者及一時ノ出兵ヲ出征軍ト見做シ從軍年ニ加算スヘキ場合ハ勅裁ニ依ル

第二十二條 海軍軍人ノ外國航海ハ從軍年ニ準シ内國港灣出發ノ日ヨリ一航海ヲ半

個年ニ加算ス其航海十二個月ニ超エルトキハ更ニ半個年ヲ加算ス但第二十一條ニ當ルトキハ本條ヲ適用セズ

第二十三條 從軍年ノ加算ハ十二個月間數回ノ戰役ニ從ヒ若クハ航海ヲ爲スト雖モ重複シテ之ヲ算セス但其一年以上ニ亘リ十二個月ニ餘ル所ノ分數ハ更ニ一役若クハ一航海ト爲ス

第六章 恩給ヲ受クヘキ資格及權利ノ消滅停止

第二十四條 軍人左ニ掲クル事項ノ一ニ當ルトキハ退職恩給、免除恩給、增加恩給、

賑恤金、給助金ヲ受クヘキ資格消滅ス

- 一 重罪ノ刑ニ處セラレタルトキ
- 二 日本臣民タルノ分限ヲ失ヒタルトキ
- 三 將校及相當官准士官ニ於テハ陸海軍刑法剝官ヲ附加スル禁錮ノ刑ニ處セラレ若クハ普通刑法其他ノ罰則ニ依リ禁錮ノ刑ニ處セラレ官職ヲ失ヒタルトキ
- 四 將校及相當官ニ於テハ陸海軍將校分限令第三條第一項第六項ニ依リ免官トナ

リタルトキ

- 五 准士官以下願ニ依リ免官若クハ現役ヲ免除シタルトキ
- 六 陸海軍下士陸軍上等兵看護手樂手補ニ於テハ陸海軍刑法普通刑法其他ノ罰則ニ依リ禁錮ノ刑ニ處セラレ官職ヲ失ヒ若クハ陸軍懲罰令若クハ憲兵條例第三十五條ニ依リ官職ヲ免セラレタルトキ
- 七 諸卒ニ於テハ普通刑法其他ノ罰則ニ依リ禁錮ノ刑ニ處セラレ若クハ陸海軍刑法ニ依リ將校ニ對シテ剝官ヲ附加スヘキ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキ
- 第二十五條 退職恩給、免除恩給、増加恩給ヲ受クル者重罪ノ刑ニ處セラレ若クハ日本臣民タルノ分限ヲ失ヒタルトキハ恩給ヲ剝奪ス
左ニ掲クル事項ノ一ニ當ルトキハ其間之ヲ停止ス
 - 一 再ヒ現役ニ就キ若クハ文官判任以上ニ任シ政府ヨリ俸給ヲ受クルトキ但商業ヲ營ムコトヲ得ヘキ官職ニ在ルトキハ此限ニアラス
 - 二 公權ヲ停止セラレタルトキ増加恩給ハ公權ヲ停止セラレタル場合ニアラサレ

ハ停止セサルモノトス

第二十六條 恩給ハ之ヲ受クヘキ事由ノ生シタル後三箇年内ニ請求セサレハ其權利ヲ拋棄シタルモノトス

第七章 扶助料

- 第二十七條 軍人左ニ掲クル事項ノ一ニ當ルトキハ其寡婦ハ扶助料ヲ受クルノ權利アルモノトス
 - 一 第四條第二第三ニ當リ死歿シタルトキ
 - 二 第四條第一第四第五條第一ニ當リ恩給ヲ受ケ又ハ之ヲ受クヘキ權利ヲ有シテ死歿シタルトキ
- 第二十八條 寡婦扶助料ノ年額ハ當該軍人ノ官階ト死歿ノ因由トニ依リ前條第一ニ當ルトキハ第五號表ニ依リ第二ニ當ルトキハ第六號表ニ依テ之ヲ給ス
- 第二十九條 扶助料ヲ受クル者左ニ掲クル事項ノ一ニ當ルトキハ其權利消滅ス
 - 一 重罪ノ刑ニ處セラレタルトキ

- 二 日本臣民タルノ分限ヲ失ヒタルトキ
 - 三 扶助料ヲ受クヘキ權利ノ生シタル日ヨリ三個年内ニ請求セサルトキ
 - 四 死歿若クハ戸籍ヲ去リ若クハ婚嫁シタルトキ
- 第三十條 扶助料ヲ受クル者公權ヲ停止セラレタルトキハ其間扶助料ヲ停止ス
- 第三十一條 寡婦ナキトキ又ハ扶助料ヲ受クル寡婦死歿シ若クハ權利消滅シタルトキハ其扶助料ヲ孤兒ニ給ス
- 扶助料ヲ受クル者公權停止中ハ其轉給ヲ受クヘキ者ニ之ヲ給ス
- 第三十二條 孤兒扶助料ハ數子アルトキハ家名繼襲者ニ給シ非戸主軍人ノ孤兒ニ在テハ長子ニ給ス其繼襲者及長子死歿シ若クハ權利消滅シ若クハ支給期限ノ滿ツルトキハ順次年少者ニ及フモノトス但家名繼襲者ヲ除クノ外男子ヲ先ニシ女子ヲ後ニス
- 第三十三條 扶助料ヲ受クヘキ寡婦及孤兒ナク若クハ扶助料ヲ受ケタル寡婦及孤兒戸籍ヲ去リ若クハ死歿シ若クハ權利消滅シタルトキ父母又ハ祖父母アルトキハ寡

婦ニ相當スル扶助料ノ全額ヲ其父母又ハ祖父母ニ終身給スルコトヲ得

其扶助料ハ先ツ父ニ給シ其父存在セサルトキ若クハ權利消滅シタルトキハ母ニ給ス母ヨリ祖父ニ祖父ヨリ祖母ニ轉給スルハ順次此例ニ例ル

第三十四條 扶助料ヲ受クヘキ寡婦孤兒又ハ父母祖父母ナクシテ死歿シタル軍人ノ戸籍内ニアル二十歳未滿又ハ痲疾若クハ不具ニシテ産業ヲ營ムコト能ハサル兄弟姉妹アリテ之ヲ給養スル者ナキトキハ寡婦ニ相當スル扶助料一個年分ヨリ少カラス五個年分ヨリ多カラサル金額ヲ人員ニ拘ハラス一時限リ其兄弟姉妹ニ給スルコトヲ得

第三十五條 第二十七條乃至第三十四條ヲ適用スヘキ軍人ノ寡婦父母祖父母及兄弟姉妹ハ其軍人現役中陸海軍兵籍簿ニ登記シタル者ニ限ル

第三十六條 此法律ニ於テ孤兒トハ年齢二十歳未滿ノ男女子ニシテ未タ結婚セサル者ヲ云フ但養男女子ハ家名繼襲者ニ限ル

第三十七條 扶助料ハ之ヲ受クヘキ事由ノ生シタル月ノ翌月ヨリ之ヲ給ス

雜則

第三十八條 陸軍軍人及海軍准士官以上ニシテ明治四年八月以前ヨリ勤仕ノ者退職若クハ免官スルトキハ同年七月以前ノ勤仕ニ對シテハ同年同月ノ現官等ニ相當スル月俸ノ半額ヲ以テ奉職年數ノ一個年ニ當テ其年數ニ應スル金額ヲ一時支給ス海軍下士以下ニシテ明治二年五月以前ヨリ勤仕ノ者ハ同年四月以前ノ勤仕ニ對シテハ同年同月ノ現官等ニ相等スル月俸ノ半額ヲ以テ奉職年數ノ一個年ニ當テ其年數ニ應スル金額ヲ一時支給ス

第三十九條 豫備後備ニ在ル者平時召集職務ノ爲メ死歿シ又ハ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ服役ニ堪ヘサルトキハ此法律ノ規定スル所ニ依リ恩給ヲ受クルノ權利ヲ有ス

屯田兵下士卒ニシテ定規ノ給助ヲ受クル者平時軍隊勤務ノ爲メ死歿シ又ハ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ服役ニ堪ヘサルトキ亦同シ

第四十條 陸軍見習士官、海軍候補生、陸海軍諸生徒定規ノ給助ヲ受クル屯田兵下士

卒及海軍水雷夫ハ第四條第二第三ニ因リ死歿シ又ハ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ服役ニ堪ヘサル者ニ限リ恩給ヲ受クルノ權利ヲ有ス

第四十一條 恩給ノ支給ハ陸海軍大臣ノ證明ニ依リ恩給局ノ審査ヲ經テ内閣總理大臣之ヲ裁定ス

行政上ノ處分ニ由リ恩給ニ關スル權利ヲ障害セラレタリトスル者ハ六箇月以内ニ恩給局ニ具申シテ裁決ヲ請フコトヲ得其裁決ニ服セサル者ハ一個年以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但左ノ事件ニ關シテハ恩給局ノ裁決ハ終審確定ノモノトス

- 一 傷痍疾病ノ原因及其輕重
- 二 職務ニ堪ユルト否ラサルト

第四十二條 恩給ハ賣買讓與質入書入スルコトヲ得ヌ又負債ノ抵償トシテ差押フルコトヲ得ヌ

第四十三條 明治八年達海軍退隱令明治九年達陸軍武官恩給令明治十六年達陸軍恩

軍人恩給法

給令海軍恩給令ニ依リ恩給又ハ退隱料及扶助料ヲ受クル者ハ總テ該令ニ依ルヘシ
但明治九年達陸軍武官恩給令ニ依リ受ケタル傷痍恩給ヲ除クノ外其權利消滅及停
止ハ此法律ニ依ル

明治七年佐賀及臺灣ノ役明治九年熊本及山口ノ役明治十年鹿兒島ノ役ニ從軍シタ
ル者並ニ明治十五年同十七年朝鮮國京城變亂ノ際該國ニ駐在若クハ派遣シタル者
ノ從軍年計算ハ總テ從前ノ命令ニ依ル

第四十四條 此法律施行前ニ現役ヲ離レタル者ノ恩給ハ明治十六年達陸軍恩給令海
軍恩給令ニ依ルヘシ但此法律施行ノ月ヨリ三箇年内ニ請求セサレハ之ヲ受クヘキ
權利ヲ拋棄シタルモノトス

第四十五條 此法律ハ明治二十三年七月一日ヨリ施行ス

第一號 退職恩給表

年 官 等	親任官		勅任官		奏任		官		准士官	
	一	二	一	二	一	二	一	二	一	二

年	親任官 一	親任官 二	勅任官 一	勅任官 二	奏任 一	奏任 二	官 一	官 二	准士官 一	准士官 二
十一年	千五百圓	千二百圓	千五百圓	千二百圓	七百五十圓	六百圓	四百五十圓	三百圓	二百二十圓	百八十圓
十二年	千五百圓	千二百圓	千二百圓	千六百圓	七百六十圓	六百十圓	四百五十圓	三百五十圓	二百二十圓	百五十三圓
十三年	千五百圓	千二百圓	千二百圓	千八百圓	七百七十圓	六百二十圓	四百六十圓	三百六十圓	二百三十圓	百五十五圓
十四年	千五百圓	千二百圓	千二百圓	千三百圓	七百八十圓	六百三十圓	四百七十圓	三百七十圓	二百四十圓	百五十八圓
十五年	千六百圓	千三百圓	千二百圓	千三百圓	八百圓	六百四十圓	四百八十圓	三百八十圓	二百四十圓	百六十圓
十六年	千六百圓	千三百圓	千三百圓	千三百圓	八百三十圓	六百五十圓	四百九十圓	三百九十圓	二百五十圓	百六十三圓
十七年	千六百圓	千三百圓	千三百圓	千五百圓	八百五十圓	六百六十圓	五百圓	四百圓	二百六十圓	百六十五圓
十八年	千六百圓	千三百圓	千三百圓	千七百圓	八百六十圓	六百七十圓	五百十圓	四百十圓	二百七十圓	百六十八圓
十九年	千七百圓	千三百圓	千三百圓	千九百圓	八百八十圓	六百八十圓	五百二十圓	四百二十圓	二百八十圓	百七十圓
二十年	千七百圓	千三百圓	千三百圓	千九百圓	八百九十圓	六百九十圓	五百三十圓	四百三十圓	二百九十圓	百七十三圓
二十一年	千七百圓	千三百圓	千三百圓	千九百圓	九百圓	七百圓	五百四十圓	四百四十圓	三百圓	百七十五圓
二十二年	千七百圓	千三百圓	千三百圓	千九百圓	九百圓	七百圓	五百五十圓	四百五十圓	三百圓	百七十八圓

軍人恩給法

二十三年	千八百圓	千四百圓	千二百圓	九百圓	七百二十圓	五百四十三圓	二百七十六圓	二百八十圓
二十四年	千八百圓	千四百圓	千二百圓	九百圓	七百三十圓	五百四十三圓	二百七十六圓	二百八十圓
二十五年	千八百圓	千四百圓	千二百圓	九百圓	七百四十圓	五百五十三圓	二百七十七圓	二百八十五圓
二十六年	千八百圓	千四百圓	千二百圓	九百圓	七百五十圓	五百六十三圓	二百七十八圓	二百八十八圓
二十七年	千九百圓	千五百圓	千三百圓	九百圓	七百六十圓	五百七十三圓	二百七十九圓	二百九十三圓
二十八年	千九百圓	千五百圓	千三百圓	九百圓	七百七十圓	五百八十三圓	二百八十圓	二百九十三圓
二十九年	千九百圓	千五百圓	千三百圓	九百圓	七百八十圓	五百九十三圓	二百八十一圓	二百九十五圓
三十年	千九百圓	千五百圓	千三百圓	九百圓	七百九十圓	六百零三圓	二百八十二圓	二百九十八圓
三十一年	二千圓	千六百圓	千四百圓	千圓	八百圓	六百零三圓	二百八十三圓	二百圓
三十二年	二千圓	千六百圓	千四百圓	千圓	八百圓	六百一十三圓	二百八十四圓	二百圓
三十三年	二千圓	千六百圓	千四百圓	千圓	八百圓	六百一十三圓	二百八十五圓	二百圓
三十四年	二千圓	千六百圓	千四百圓	千圓	八百圓	六百一十三圓	二百八十六圓	二百圓

第二號 免除恩給表

年	官	下					卒				
		二	三	四	海軍	海軍	陸軍	海軍	海軍		
三十五年	二千圓	千六百圓	千四百圓	千五百圓	八百四十六圓	六百三十四圓	三百三十二圓	二百五十二圓	二百十圓		
三十六年	二千圓	千六百圓	千四百圓	千五百圓	八百五十六圓	六百四十四圓	三百四十二圓	二百五十二圓	二百十三圓		
三十七年	二千圓	千六百圓	千四百圓	千五百圓	八百六十六圓	六百五十四圓	三百五十二圓	二百五十二圓	二百十五圓		
三十八年	二千圓	千六百圓	千四百圓	千五百圓	八百七十六圓	六百六十四圓	三百六十二圓	二百五十二圓	二百十八圓		
三十九年	二千圓	千六百圓	千四百圓	千五百圓	八百八十六圓	六百七十四圓	三百七十二圓	二百五十二圓	二百二十圓		
四十年	二千圓	千六百圓	千四百圓	千五百圓	八百九十六圓	六百八十四圓	三百八十二圓	二百五十二圓	二百二十圓		
十一年	六十圓	五十四圓	四十八圓	四十四圓	四十四圓	四十圓	三十六圓	三十二圓	二十八圓		
十二年	六十二圓	五十六圓	五十圓	四十五圓	四十一圓	三十七圓	三十三圓	二十九圓	二十九圓		
十三年	六十四圓	五十八圓	五十二圓	四十七圓	四十二圓	三十八圓	三十四圓	三十圓	三十圓		

十四年	六十六圓	六十圓	五十四圓	四十九圓	四十四圓	三十九圓	三十五圓	三十一圓
十五年	六十九圓	六十二圓	五十六圓	五十一圓	四十六圓	四十一圓	三十六圓	三十二圓
十六年	七十二圓	六十五圓	五十八圓	五十三圓	四十八圓	四十三圓	三十八圓	三十三圓
十七年	七十五圓	六十八圓	六十二圓	五十七圓	五十二圓	四十七圓	四十二圓	三十七圓
十八年	七十七圓	七十圓	六十二圓	五十六圓	五十一圓	四十六圓	四十一圓	三十六圓
十九年	七十九圓	七十二圓	六十四圓	五十八圓	五十二圓	四十七圓	四十二圓	三十七圓
二十年	八十一圓	七十四圓	六十六圓	六十圓	五十四圓	四十八圓	四十三圓	三十八圓
二十一年	八十四圓	七十六圓	六十八圓	六十二圓	五十六圓	五十圓	四十四圓	三十九圓
二十二年	八十七圓	七十八圓	七十圓	六十四圓	五十八圓	五十二圓	四十六圓	四十圓
二十三年	九十圓	八十一圓	七十二圓	六十六圓	六十圓	五十四圓	四十八圓	四十二圓
二十四年	九十二圓	八十三圓	七十四圓	六十七圓	六十一圓	五十四圓	四十九圓	四十三圓
二十五年	九十四圓	八十五圓	七十六圓	六十九圓	六十二圓	五十六圓	五十圓	四十四圓

二十六年	九十六圓	八十七圓	七十八圓	七十二圓	六十四圓	五十七圓	五十一圓	四十五圓
二十七年	九十九圓	八十九圓	八十圓	七十三圓	六十六圓	五十九圓	五十二圓	四十六圓
二十八年	百二圓	九十二圓	八十二圓	七十五圓	六十八圓	六十一圓	五十四圓	四十七圓
二十九年	百五圓	九十五圓	八十四圓	七十七圓	七十圓	六十三圓	五十六圓	四十九圓
三十年	百七圓	九十七圓	八十六圓	七十八圓	七十一圓	六十四圓	五十七圓	五十圓
三十一年	百九圓	九十九圓	八十八圓	八十圓	七十二圓	六十五圓	五十八圓	五十一圓
三十二年	百十一圓	百一圓	九十圓	八十二圓	七十四圓	六十六圓	五十九圓	五十二圓
三十三年	百十四圓	百三圓	九十二圓	八十四圓	七十六圓	六十八圓	六十圓	五十三圓
三十四年	百十七圓	百五圓	九十四圓	八十六圓	七十八圓	七十圓	六十二圓	五十四圓
三十五年	百二十圓	百八圓	九十六圓	八十八圓	八十圓	七十二圓	六十四圓	五十四圓
三十六年	百廿二圓	百十圓	九十八圓	八十九圓	八十一圓	七十三圓	六十五圓	五十七圓
三十七年	百廿四圓	百十二圓	百圓	九十一圓	八十二圓	七十四圓	六十六圓	五十八圓

軍人恩給法

三十八年	百廿六圓百十四圓百二圓九十三圓八十四圓七十五圓六十七圓五十九圓
三十九年	百廿九圓百十六圓百四圓九十五圓八十六圓七十七圓六十八圓六十圓
四十年	百卅二圓百十九圓百六圓九十七圓八十八圓七十九圓七十圓六十一圓

第三號 負傷增加恩給表

項等	將官及相當官		准士官及下士	
	親任官	勅任官	親任官	勅任官
一	一等二二三三四五六七	一等二二三三四五六七	一等二二三三四五六七	一等二二三三四五六七
二	一等二二三三四五六七	一等二二三三四五六七	一等二二三三四五六七	一等二二三三四五六七
三	一等二二三三四五六七	一等二二三三四五六七	一等二二三三四五六七	一等二二三三四五六七
四	一等二二三三四五六七	一等二二三三四五六七	一等二二三三四五六七	一等二二三三四五六七
五	一等二二三三四五六七	一等二二三三四五六七	一等二二三三四五六七	一等二二三三四五六七
六	一等二二三三四五六七	一等二二三三四五六七	一等二二三三四五六七	一等二二三三四五六七

第四號 給助金表

將官及相當官	親任官	勅任官	准士官及下士
親任官	一等二二三三四五六七	一等二二三三四五六七	一等二二三三四五六七
勅任官	一等二二三三四五六七	一等二二三三四五六七	一等二二三三四五六七

第五號 戰闘及公務ノ爲メ死歿シタル者ノ寡婦孤兒扶助料

將官及相當官	親任官	勅任官	准士官及下士
親任官	一等二二三三四五六七	一等二二三三四五六七	一等二二三三四五六七
勅任官	一等二二三三四五六七	一等二二三三四五六七	一等二二三三四五六七

第六號 寡婦孤兒扶助料

將官及相當官	親任官	勅任官	准士官及下士
親任官	一等二二三三四五六七	一等二二三三四五六七	一等二二三三四五六七
勅任官	一等二二三三四五六七	一等二二三三四五六七	一等二二三三四五六七

軍人恩給法

●閣令第五號 (明治二十三年七月二日)

軍人恩給法施行規則

第一條 軍人恩給法ニ依リ退職恩給免除恩給増加恩給賑恤金給助金ヲ受クヘキ者ハ其請求書ニ履歷書ヲ添ヘ公務ノ爲メ受ケタル傷痍疾病ニ起因シ之ヲ請求スル者ハ軍人恩給法第十二條ニ掲ケル書類ヲ添ヘ所管長官ニ差出シ所管長官ヨリ陸軍大臣若クハ海軍大臣ニ差出スヘシ

第二條 軍人恩給法ニ依リ恩給受クヘキ資格アル軍人死歿シタルトキハ所管長官ヨリ死者ノ履歷書ヲ其遺族ニ下付スヘシ

軍人恩給法第二十七條第一ニ當ル者アリタルトキハ所管長官ヨリ其事實ヲ證明スヘキ書類ヲ其遺族ニ下付スヘシ

第三條 軍人恩給法ニ依リ扶助料ヲ請求スル者ハ其請求書ニ請求者署名シ後見人ア見人連署親族二名、親族ナキトキハ居住地ノ戸主二名連署シ市町村長ノ奥印ヲ受ケ左ニ掲ケル書類ノ外市町村長ノ證明シタル戸籍調書ヲ添ヘ地方長官ニ差出スヘシ

一 現役中死歿シタル軍人ノ遺族ハ所管長官ヨリ下渡シタル死者ノ履歷書

二 前項ノ者軍人恩給法第二十七條第一ニ當ルトキハ履歷書ノ外所管長官ヨリ下渡シタル公務ノ爲メ死歿シタル事實ヲ證明スヘキ書類

三 恩給ヲ受ケタル軍人ノ遺族ハ其恩給證書

四 扶助料ヲ受クル者死歿若クハ權利消滅シ若クハ支給期限ノ満チタルトキ其轉給ヲ受クヘキ者ハ前者ノ恩給證書

五 扶助料ヲ受クル者公權停止ニ因リ其轉給ヲ受クヘキ者ハ確定裁判ノ宣告書寫
六 軍人恩給法第三十四條ニ當ル痲疾不具ニシテ産業ヲ營ムコト能ハサル者ハ第一第二若クハ第三若クハ第四ニ掲ケル書類ノ外醫師ノ診斷證書

地方長官前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ陸軍大臣若クハ海軍大臣ニ差出スヘシ但明治十年鹿兒島ノ役ニ從軍シ陸軍恩給令ニ依リ恩給ヲ受ケタル元警視局員ノ遺族ヨリ本條ノ請求ヲ爲シタルトキハ地方長官ヨリ内務大臣ニ差出スヘシ

第四條 陸海軍大臣又ハ内務大臣前條ノ請求書ヲ受ケタルトキハ審査ノ上請求ノ理由アリト認ムルトキハ恩給計算書ヲ作り證據書類ヲ添ヘ、其傷疾疾病ニ起因スルモノニ付テハ陸軍省醫務局若クハ海軍中央衛生會議ノ覆覈ヲ經タル書類、軍人ノ寡婦父母祖父母及兄弟姊妹ノ扶助料ニ付テハ陸海軍兵籍簿ノ寫ヲ添ヘ内閣總理大臣ニ差出スヘシ

陸海軍大臣又ハ内務大臣ニ於テ前項請求ノ理由ナシト認ムルトキハ意見ヲ具シテ之ヲ内閣總理大臣ニ差出スヘシ

第五條 内閣ニ於テ恩給ノ請求ヲ許可シタルトキハ恩給證書ヲ作り陸軍省若クハ海軍省若クハ内務省ヲ經テ本人居住地ノ地方廳ヲシテ之ヲ下付セシム但一時ノ支給ニ係ルモノハ辭令書ヲ用ユ

恩給證書若クハ辭令書ヲ下付シタルトキハ内閣ハ其旨ヲ大藏省ニ通報スヘシ

第六條 軍人恩給法第三十八條ノ月俸ニシテ米給ニ係ルモノハ官吏恩給法施行規則第十一條ノ例ニ依ル

第七條 扶助料ヲ受クル者死歿若クハ戶籍ヲ去リ若クハ婚嫁シ若クハ支給期限ノ満チタルトキハ地方廳ニ於テ其月ノ翌月ヨリ扶助料ノ支給ヲ廢シ其旨ヲ大藏省ニ通知スヘシ大藏省ハ之ヲ内閣恩給局ニ通知スヘシ

前項ノ場合ニ於テ扶助料ノ轉給ヲ受クヘキ者ナキトキハ地方廳ニ於テ其恩給證書ヲ收メテ内閣恩給局ニ送付スヘシ

第八條 軍人恩給法第九條第十四條第十五條ノ傷疾疾病輕重ノ等差ハ陸海軍大臣之ヲ定ム

第九條 明治八年達陸軍武官傷疾扶助死亡ノ者祭案家族扶助概則及海軍退隱令明治九年達陸軍武官恩給令明治十六年達陸軍恩給令海軍恩給令ニ依リ恩給又ハ退隱料扶助料ヲ受クル者左ノ場合ニ於テハ本則ニ依ル

- 一 死歿又ハ權利消滅又ハ停止ノトキ
- 二 恩給證書ヲ亡失シタルトキ
- 三 改氏名又ハ居住地ヲ轉シタルトキ

第十條 明治十六年達陸軍恩給令海軍恩給令ニ依リ恩給又ハ扶助料ヲ請求スル者ハ本則ニ依ルヘシ

廿七年十月
月令第十
七號參看

第十一條 市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ本規則ニ依リ市町村長ノ爲スヘキ職務ハ區戸長ニ於テ之ヲ行フヘシ

第十二條 本規則ニ於テ特別ノ規定ヲ設ケサルモノハ總テ官吏恩給法施行規則ノ例ニ依ル

●陸軍省令第二十二號 (明治二十三年七月二十三日)

陸軍軍人恩給取扱手續

第一條 軍人恩給法ニ依リ恩給ヲ請求スル手續ハ軍人恩給法施行規則ニ示シタルモノ、外陸軍部内ニ在テハ此細則ニ準據スヘシ

第二條 退職恩給免除恩給増加恩給ノ請求書ハ當該軍人現役ヲ離レタル後第二第二書式ニ示シタル書類ヲ具備シ舊所屬長ニ呈スヘシ所屬長之ヲ調査シ計算書(第九

書式)ヲ作り順序ヲ經テ所管長官ニ呈シ所管長官ハ之ヲ陸軍大臣ニ進達スヘシ

第三條 傷痍疾病ニ基ク恩給ノ請求ニ係ルトキハ所管長官其診斷證書(第五書式)ヲ軍醫長ニ移シテ審査セシメタル上陸軍大臣ニ進達スヘシ

地方醫師ノ診斷證書ヲ以テ恩給ヲ請求スルハ陸軍醫官ノ診斷ヲ受クルコト能ハサル場合ニ限ル其證書ニハ原因經過療法及ヒ現症ヲ詳記シテ醫師二名署名セシムヘシ所管長官ハ醫官ヲシテ其傷痍疾病ノ等差ヲ判定シ查覈證書ヲ作ラシメタル上書類ヲ軍醫長ニ移シ之ヲ審査セシムヘシ

第四條 軍人恩給法第十一條ニ當ル者ハ其期限内ニ於テ居住地方ノ師團長若クハ屯田兵司令官ニ檢査ヲ請求スルコトヲ得

師團長若クハ屯田兵司令官其請求ヲ受ケタルトキハ醫官ヲシテ其症狀ヲ實査セシメ診斷證書(第五書式)ヲ作ラシム其診斷證書ノ審査ニ係ル取扱ハ第三條ノ例ニ同シ

第五條 休職者停職者ノ恩給請求書ハ直ニ所管師團長若クハ屯田兵司令官

兵籍ヲ寄
留地ニ移

シタル者ハ其寄留地師團長ハ之ヲ參謀長屯田兵司令官ハ參謀ニ下シテ調査セシメ
ノ師團長ニ呈スヘシ
計算書(第九書式)ヲ作り之ヲ陸軍大臣ニ進達スヘシ

第六條 賑恤金ノ請求ハ第三書式ニ示シタル書類ヲ具備シ舊所屬長ニ呈スヘシ所屬
長ハ順序ヲ經テ所管長官ニ呈シ所管長官ハ第三條ノ例ニ依リ之ヲ取扱フヘシ

第七條 給助金ノ請求ハ第四書式ニ示シタル書類ヲ具備シ本人若クハ遺族ヨリ舊所
管長官ニ呈スヘシ所管長官ハ之ヲ陸軍大臣ニ進達スヘシ

第八條 恩給ヲ受クル權利ヲ有スル士官候補生ノ内見習士官ハ曹長ニ一等軍曹二等
軍曹ノ各階級ニ進ミタル者ハ其階級ニ其他ノ生徒ハ總テ兵卒ニ準ス

第九條 服役年ヲ算スルニ當リ初任ノ月ニ端日數ヲ生シタルトキハ其月ノ大小ニ依
リ積算スルヲ法トス故ニ現役ヲ離レタル月ノ端日數ト合セテ三十日以上ニ及ヒタ
ルトキハ其初任ノ月ノ大小ニ從ヒ一箇月ノ區域ヲ定ム

第十條 軍人恩給法施行規則第二條ニ依リ所管長官ヨリ死者ノ履歴書ヲ其遺族ハ下
附スルトキハ兵籍ノ寫ヲ添ユヘシ 戸籍ニ關スル部分ノミ記ス 但給助金ノミヲ受クヘキ遺族ニ在

廿五年六
月省令第
十號參看

テモ亦同シ

前項ノ履歴書(第八書式)及兵籍寫ニハ所管長官其事實ヲ証明スヘシ但兵籍寫ノ証
明書式ハ第八書式末文ニ依ル

第十一條 恩給、賑恤金給助金ノ請求書及ヒ履歴書ハ各二通ヲ差出スヘシ
第一書式 (用紙美濃紙)

恩給請求書

何年何月何日何兵ニテ入營(何々被申付)何年何月何日被任何官爾來何箇年服役何
年何月何日豫備(後備)(退役)(服役滿期)(傷痍(疾病)ノ故ヲ以テ退役(免官)(免
役)ニ相成候就テハ軍人恩給法第何條ニ依リ恩給下賜度證據書類相添請求仕候也

元第何師團何兵第何聯隊第何中隊(官廳)
何府(縣)何市區(郡)町(村)番地華(士)族(平民)
何府(縣)何市區(郡)町(村)番地寄留

年月日

官氏名印

所管長官爵氏名殿

陸軍軍人恩給取扱手續

陸軍軍人恩給取扱手續

附属スヘキ證據書類

履歷書(第八書式)

傷疾疾病ニ係ルモノハ

履歷書(第八書式)

診斷證書(第五書式)若クハ第三條第二項ノ地方醫師診斷證書

現認證書(第七書式)若クハ公文ノ寫若クハ口供書

第二書式 (用紙美濃紙)

(傷疾疾病重症ニ趨キ恩給ノ増加ヲ請
求若クハ其恩給ヲ更ニ請求スルトキ)

恩給請求書

何年何月何日ヨリ傷疾(疾病)ノ故ヲ以テ恩給及負傷増加恩給下賜候(現役ヲ離レ
候)處爾來何々ニ據リ遂ニ重症ニ趨キ別紙診斷證書ノ通ニ候間御檢査ノ上軍人恩
給法第何條ニ據リ恩給下賜證據書類相添請求仕候也

肩書第一書式ニ同シ

年月日

官氏名印

所管長官爵氏名殿

附属スヘキ證據書類

診斷證書 地方醫師ノ製シタル診斷證書ニア
リテハ醫師二名連署シタルモノ

更ニ恩給ヲ請求スルモノハ

履歷書(第八書式)

診斷證書 地方醫師ノ製シタル診斷證書ニア
リテハ醫師二名連署シタルモノ

現認證書(第七書式)若クハ公文ノ寫若クハ口供書

第三書式 (用紙美濃紙)

賑恤金請求書

何年何月何日何地ニ於テ何々ノ爲メ傷疾ヲ受ケ(疾病ニ罹リ)爾來加療ノ未服役ニ
堪ヘサルヲ以テ何月何日免官(免役)相成候就テハ軍人恩給法第何條ニ據リ相當ノ
賑恤金下賜證據書類相添請求仕候也

陸軍軍人恩給取扱手續

肩書第一書式ニ同シ

年月日

元官氏

名印

所管長官爵氏名殿

附屬スヘキ證據書類

診斷證書(第五書式)若クハ第三條第二項ニ同シキ地方醫師診斷證書
現認證書(第七書式)若クハ公文ノ寫若クハ口供書

第四書式 (用紙美濃紙)

給助金請求書

何年何月何日被任何官爾來何箇年勤續本年何月何日現役ヲ離レ候ニ付軍人恩給法
第何條ニ據リ給助金下賜度證據書類相添請求仕候也

肩書第一書式ニ同シ

年月日

官氏

名印

所管長官爵氏名殿

附屬スヘキ證據書類

履歷書(第八書式)

(遺族ヨリ出願ノトキ)

給助金請求書

第何師團何兵第何聯隊第何中隊(官廨)

故官氏

名

右何年何月何日死去仕候ニ付軍人恩給法第何條ニ據リ給助金下賜度證據書類相添
請求仕候也

故官氏名寡婦(孤兒)(遺族)

何府(縣)何市區(郡)町(村)番地華(士)族(平民)
何府(縣)何市區(郡)町(村)番地寄留

年月日

氏

名印

所管長官爵氏名殿

附屬スヘキ證據書類

陸軍軍人恩給取扱手續

履歷書 (第八書式)

第五書式 (用紙美濃十三行罫紙)

(丙ハ朱書)

診斷證書

第何師團何兵第何聯(大)隊第何中隊

陸軍何兵何等卒 氏 名

右何年(何役)何月何日何地ニ於テ何々ノ際右大腿前下部ヨリ膝膈ニ貫通スル骨傷銃創ヲ受ケ(何病ニ罹リ直ニ綑帶所(某野戰病院)ニ於テ一時ノ處置ヲ施シ爾後何々病院ヲ經テ何月何日某術戍病院(某豫備病院)ニ入院(軍人恩給法第十一條ニ當ルモノハ爾來加療ノ未創面治癒スルニ由リ何年何月現役ヲ離レタル後何月何日來該傷痕ノ爲メ何々症ヲ發シ)當時ノ進狀何々(何々症ヲ繼(併)發ス)依テ何々ノ部ニ何々ノ手術(何々ノ療法)ヲ施シ爾後經過何々ニシテ現今創面(何々)ハ治癒スト雖モ右膝關節何度ノ角ニ於ケル強剛ヲ遺シ且患肢ハ健肢ヨリモ瘦削スルコト何々ノ部ニ於テ周測スルニ何仙迭迷篤爾ニシテ該肢ノ用ヲ妨クルニ由リ軍人恩給法第

九條第何項症)賑恤金ニ係ルモノハ軍人恩給法第十四條第何項即陸軍軍人傷痕疾病恩給等差例第二條第何款ノ甲(乙)症)ト診斷候也

主任

年月日

職 官 氏 名 印

再診

何病院長 官 氏 名 印

「審査」

「第何師團軍醫長 官 氏 名 印」

「右覆數候處適當ノ診斷ト認定候也」

「陸軍省醫務局長 氏 名 印」

備考 傷痕疾病ノ原因、症候(傷痕ノ種類、部位、淺深等、疾病ノ輕重、併發症、繼發症等)經過、療法及ヒ現時官能障得ノ景況ヲ詳記スヘシ
本證書ハ退役又ハ服役免除ノ爲ニ要スル診斷證書ト同時ニ調製スヘキモ

ノトス

再診ハ本人ニ就テ診断スルヲ例トス但シ場合ニ依リ病床日誌ノ寫(病床日誌ヲ作ラサルトキハ病歴書)ニ就テ再診スルコトヲ得
各官衙附憲兵隊附等ノモノニ係ル審査ノ取扱ハ一般ノ手續ニ依ル

第六書式 (用紙美濃十三行野紙)

死亡證書

第何師團何兵第何聯(大)隊何中隊

陸軍何兵何等卒 氏 名

右何年何月何日何地ニ於テ何々ノ際何部ニ何傷ヲ受ケ(何病ニ罹リ)爾後何病院(何々ヲ經テ何月何日來向病院)ニ於テ加療候處(何々症ヲ繼(併)發シ)遂ニ何々ニ由リ本日午前(後)何時何分死亡候也

年月日

職官氏 名 印

備考 入院患者ニアリテハ病院長其他ニアリテハ主任ノ醫官之ヲ調製スルモノ

第七書式

トス

現認證書

第何師團何兵第何聯(大)隊第何中隊

陸軍何兵何等卒 氏 名

右何年何月何日午前(後)何時何地ニ於テ俱ニ進撃ノ際(器械體操何演習何々ノ際何々ニ由リ何々ニ觸レ)(何々ニ由リ何物ノ爲ニ)何部ニ何傷ヲ受クルヲ現認候也

第何師團何兵第何聯(大)隊第何中隊

官氏 名 印

同

官氏 名 印

備考 本證書ハ勉メテ受傷ノ現況ヲ詳記スヘシ

現認者一名ノ場合ニ在テハ一名ニテ之ヲ作ルヘシ

第八書式

履歷書 (死者ノ遺族へ下付スヘキ履歷書モ之ニ準ス)

何府(縣)何市區(郡)町(村)番地華(士)族(平民)
同 何番地寄留

明治何年何月何日 徵兵ニテ何師團へ入營(任何官) 官氏 名 印
文官ニ係ルモノハ其任命シタル官廳ノ名ヲ任官ノ下ニ一々記スヘシ

同 何年何月何日 何々ノ科ニ依リ輕禁錮何日

同 何年何月何日 任何兵二等軍曹

同 何年何月何日 任何兵一等軍曹

同 何年何月何日 某地從軍 (外國戰ニ當リ出征軍ニ編入セラレタルトキハ内國

港灣出發ノ日)
(内國戰ニ在テハ戰地ニ臨ミタル日)
(臨戰合圍地境內ニ於テ服役シタルトキハ其境內ニ於テ役ニ就キタル日)
(日本國外ノ鎮戍ニ在リタルトキハ其鎮戍ニ臨ミタル日)

同 何年何月何日 某地ヨリ歸營

(外國戰ニ當リテハ歸港ノ日)
(内國戰ニ當リテハ戰地ヲ退キタル日)
(臨戰合圍地境內ニ於テ役ニ就キタルトキハ其役ヲ離レタル日)
(日本國外ノ鎮戍ニ在リシトキハ其鎮戍ヲ離レタル日)

同 何年何月何日 任何兵曹長

同 何年何月何日 任何兵少尉

同 何年何月何日 任何兵中尉

同 何年何月何日 豫備(後備)(退役)被仰付(免官)(免役)(死亡)

右相違無之依テ証明候也

年月日

職官氏名

印職

第九書式

恩給計算書

官氏名

同 何年	同 何年	同 何年	同 何年	同 何年	同 何年	同 何年	同 何年	同 何年	同 何年	同 何年	同 何年	同 何年	明治 何年	年
何月	何月	何月	何月	何月	何月	何月	何月	何月	何月	何月	何月	何月	何月	月
何日	何日	何日	何日	何日	何日	何日	何日	何日	何日	何日	何日	何日	何日	日
服役終期	任何官	任何官	任何官		教導團生徒		徵兵	官祿何石 月俸何圓	任何官	任何官	任何官	任何官	事由	
何年何箇月何日				除夕		何年何箇月		何年何箇月 (一時賜金ニ係ル年月)					服役年通算	

同 何年	同 何年	同 何年	同 何年	同 何年	同 何年	同 何年	同 何年	同 何年	同 何年	同 何年	同 何年	同 何年	同 何年	同 何年	
何月	何月	何月	何月	何月	何月	何月	何月	何月	何月	何月	何月	何月	何月	何月	
何日	何日	何日	何日	何日	何日	何日	何日	何日	何日	何日	何日	何日	何日	何日	
										輕禁錮					
何年何箇月何日				加算		何年		何年							
總計何年何箇月何日				差引何年何箇月何日		退職(免除)恩給何年ノ高		金圓 四分ノ金額		增加恩給第何項ノ高		金圓 四分ノ金額		何年	

年月日	職官	氏名	職印

備考 服役年ノ端數ヲ合シテ三十日以上ニ及フトキハ初任ノ月ノ大小ニ依リ一箇月ヲ定ム文官奉仕中ノ年月ヲ武官ノ年月ニ補フトキ一日未滿ノ分數ヲ生スルトキハ之ヲ一日ニ探ル

明治八年五月九日	補何等出仕	三年九箇月二十日內
明治十年二月二十日		四分ノ三一箇月二十一日
明治十二年二月二十一日	任小尉	歷年三年七箇月十二日
明治十二年十二月三十一日	終服期	十年十箇月九日

總計十四年七箇月十二日

●勅令第二百三十八號 (明治二十九年六月三日)

陸軍服役條例

- 第一章 將校ノ服役
 - 第一款 現役
 - 第二款 豫備役及後備役
- 第二章 准士官ノ服役
- 第三章 下士ノ服役
 - 第一款 通則
 - 第二款 現役
 - 第三款 豫備役及後備役

第四章 兵卒ノ服役

第一款 通則

第二款 現役

第三款 豫備役及後備役

第五章 補充兵ノ服役

第六章 雜則

附則

陸軍服役條例

第一章 將校ノ服役

第一款 現役

第一條 現役將校ハ所屬部隊ノ兵籍ニ編入シ現役定限年齢ニ滿ツル迄服役セシム但別ニ規定アルモノハ此ノ限ニアラス

第二條 將校ノ現役定限年齢ハ左ノ如シ

中將 七十歳

少將 六十五歳

憲兵大中佐 五十七歳

歩騎砲工輜重兵大中佐 五十四歳

憲兵少佐 五十一歳

歩騎砲工輜重兵少佐 四十八歳

憲兵大尉 四十五歳

歩騎砲工輜重兵中小尉 四十五歳

第三條 現役定限年齢ニ滿ツルモ他人ヲ以テ代フヘカラサル職ニ在ル者ハ留任ヲ命スルコトアルヘシ

第四條 現役定限年齢ニ滿ツルモ戰時若シハ事變ニ際スルトキ又ハ航海中或ハ外國駐劄中ハ現役期限ヲ延ハスコトアルヘシ

第五條 現役定限年齢ニ滿タサルモ服役十一年以上ニシテ現役ニ堪ヘサル者ハ將官ハ上諭ニ依リ上長官士官ハ陸軍大臣旨ヲ諭シテ現役ヲ退カシムルコトアルヘシ

第六條 現役將校傷疾若クハ疾病ニ由リ職務若クハ永久服役ニ堪ヘスト思惟スルトキハ陸軍醫官ノ診斷證書若クハ地方醫師ノ病況書ヲ添ヘ順序ヲ經テ休職又ハ退役ヲ陸軍大臣ニ願出ヘシ

第七條 休職停職ノ將校ハ本籍所在師管ノ兵籍ニ編入シ師團長ノ管轄ニ屬ス他ノ師管ニ寄留スル者ハ寄留地所管師團長ノ監督ヲ受シ

第八條 休職停職ヲ命セラレタル者歸郷シタルトキハ十四日以内ニ師團長ニ届出ヘシ但歸郷旅行一箇月以上ヲ要スルトキハ到着日ヲ豫定シ出發前本籍所管師團長ニ届出ヘシ

從前ノ在職地若クハ其ノ他ノ地ニ一箇月以上滞在若クハ寄留セント欲スル者ハ本籍所管ノ師團長ニ届出テ歸郷シタルトキハ前項ノ届出ヲ爲スヘシ
前項ノ滞在地若クハ寄留地本籍地外ノ師管ニ係ルトキハ滞在若クハ寄留ノ當日ヨリ十四日以内ニ其ノ地所管ノ師團長ニモ届出ヘシ其ノ本籍ニ復歸シ若クハ寄留替ヲ爲サントスルトキ亦同シ

第九條 休職停職ノ將校十四日以上旅行又ハ寄留セント欲スルトキハ師團長ニ届出テ歸郷シタルトキハ十四日以内ニ師團長ニ届出ヘシ

前項ノ寄留地本籍地外ノ師管ニ係ルトキハ其ノ地ノ師團長ニモ届出ヘシ其ノ本籍ニ復歸シ若クハ寄留替ヲ爲サントスルトキ亦同シ

其ノ外國ニ旅行又ハ寄留セント欲スル者ノ取扱ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第十條 休職停職ノ將校寄留地師管ノ兵籍ニ轉セント欲スル者ハ師團長ニ願出テ許可ヲ受ケタルトキハ其ノ旨ヲ寄留地所管ノ師團長ニ届出ヘシ

第十一條 休職停職ノ將校兵籍上異動ヲ生シタルトキハ師團長ニ届出ヘシ但自己ノ身上ニ係ル異動ハ寄留地所管ノ師團長ニモ届出ヘシ

第十二條 休職停職ノ將官ヨリ陸軍大臣ニ差出ス願書ハ師團長ヲ經由シ佐官以下ノ將校ヨリ師團長ニ差出ス願書ハ聯隊區司令官警備隊區ニ在テハ警備隊司令官以下同シヲ經由シ陸軍大臣ニ差出ス願書ハ聯隊區司令官及師團長ヲ經由スヘシ

第十三條 本款ハ現役將校相當官ニ適用ス

第十四條 將校相當官ノ現役定限年齢ハ左ノ如シ

監督長	軍醫總監	六十歲
一等監督	軍醫監	六十歲
二、三等監督	藥劑監	五十七歲
獸醫監	一等軍醫	五十四歲
監督補	二等獸醫	五十一歲
一等藥劑官	二等藥劑官	五十一歲
二等軍吏	二等軍吏	五十一歲
二等獸醫	三等藥劑官	四十八歲
一等軍樂長	三等軍吏	四十八歲
三等軍醫		
三等獸醫		

第二款 豫備役及後備役

第十五條 豫備役後備役將校ハ本籍所在師管ノ兵籍ニ編入シ師團長ノ管轄ニ屬ス

第十六條 豫備役將校ノ服役期限ハ現役定限年齢ニ充ツル年ノ三月三十一日迄トス

第十七條 後備役將校ノ服役期限ハ豫備役ヨリ轉入シタル者ハ轉入後五箇年現役定限年齢ニ滿テ後備役ニ轉入シタル者ハ現役ヲ退キタル年ヨリ第六年目ノ三月三十

一日迄トシ後備役准士官下士ヨリ士官ニ進級シタル者ハ現役定限年齢ニ滿ツル年ヨリ第六年目ノ三月三十一日迄トス

第十八條 豫備役後備役將校ノ服役期限既ニ滿ツルト雖戰時或ハ事變ニ際スルトキ若クハ航海中或ハ外國駐劄中ハ其期限ヲ延ハスコトアルヘシ

第十九條 第三條第四條第十八條ニ依リ留任ヲ命シ又ハ服役ヲ延期シタル者ト雖服役年期ノ計算ハ留任セサル者又ハ服役ヲ延期セサル者ニ同シ

第二十條 豫備役後備役將校服役滿期ニ至リタルトキハ辭令ヲ用キスシテ豫備役ハ後備役ニ後備役ハ退役ニ入ルモノトス

第二十一條 豫備役後備役將校ハ滿期後引續キ服役スルコトヲ得志願ノ者ハ年數ヲ定メ陸軍大臣ニ願出ヘシ

第二十二條 豫備役後備役將校傷疾若クハ疾病ニ由リ永久服役ニ堪ヘスト思惟スルトキハ陸軍醫官ノ診斷證書若クハ地方醫師ノ病況書ヲ添ヘ退役ヲ陸軍大臣ニ願出ヘシ

第二十三條 豫備役後備役將校ハ現役將校同等官ノ次席トス

第二十四條 豫備役後備役將校ハ召集ニ應スルトキ及朝拜參賀公私ノ儀式祭典其ノ他廉アル宴會等ノ場所ニ列スルトキハ陸軍ノ制服ヲ著スルモノトス但文官ニ任セラレタル者ハ召集ノ場合ヲ除クノ外文官ノ制服ヲ著スルモ妨ケナシ

第二十五條 豫備役後備役將校ハ戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ召集ス平常ニ在テハ勤務演習ノ爲メ召集ス

第二十六條 豫備役後備役將校ニシテ文官ニ任セラレ除人ヲ以テ代フヘカラサル職務ヲ奉スル者、外國ニ在ル者對馬警備隊區ニ在テ朝鮮國釜山ニ旅行又ハ寄留スル者ヲ除ク及市町村長、助役、收入役ト爲ル者ハ勤務演習ノ爲メ召集スルコトナシ法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員ト爲ル者其ノ開會中亦同シ

第二十七條 豫備役後備役將校ニシテ他ノ師管ニ寄留シ該師管ニ於テ勤務演習ヲ爲サント欲スル者ハ師團長ニ願出テ其ノ許可ヲ受ケタルトキハ寄留地到著後寄留後書受領後三日以内ニ豫備役後備役編入年、現官ニ任セラレタル年月及嘗テ勤務演

習ヲ爲シタル年月ヲ記シ寄留地ノ師團長ニ届出ヘシ

第二十八條 豫備役後備役將校ニシテ止ムヲ得サル事故アリ勤務演習召集ノ猶豫ヲ願フ者ハ其事實ヲ證明シ師團長ノ許可ヲ請フヘシ

第二十九條 現役ヨリ豫備役若クハ後備役ニ入ル將校歸郷シタルトキハ十四日以内ニ師團長ニ届出ヘシ

從前ノ在職地若クハ其ノ他ノ地ニ一箇月以上滞在若クハ寄留セント欲スルトキ若クハ歸郷旅行日數一箇月以上ヲ要スルトキハ本籍市町村ニ於テ召集ノ命アルトキ之ヲ通報スヘキ者成年以上ノ男子ニ限ルヲ定メ師團長ニ届出テ歸郷シタルトキハ前項ノ届出ヲ爲スヘシ

前項ノ滞在地若クハ寄留地本籍地外ノ師管ニ係ルトキハ其ノ地ノ師團長ニモ届出ヘシ其ノ本籍ニ復歸シ若クハ寄留替ヲ爲サントスルトキ亦同シ

第三十條 豫備役後備役將校十四日以上旅行或ハ寄留セントスルトキハ召集ノ命アルトキ之ヲ通報スヘキ者成年以上ノ男子ニ限ルヲ定メ師團長ニ届出テ歸郷シタルトキハ十四

日以内ニ師團長ニ届出ヘシ

前項ノ寄留地本籍地外ノ師管ニ係ルトキハ其ノ地ノ師團長ニモ届出ヘシ其ノ本籍ニ復歸シ若クハ寄留替ヲ爲サントスルトキ亦同シ

外國ニ在ル者召集ノ通報ヲ受ケ又ハ其ノ他ノ手續ニ依リ充員召集若クハ後備軍召集ノ舉アルコトヲ確知シタルトキハ直ニ歸朝シ本籍地到着後二十四時以内ニ師團長ニ届出ヘシ

第三十一條 豫備役後備役將校兵籍上異動ヲ生シタルトキハ十四日以内ニ師團長ニ届出ヘシ但他ノ師管ニ戶籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ師團長ニ届出ヘシ

第三十二條 豫備役後備役將校ニシテ市町村長、助役、收入役ト爲リ又ハ法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員ト爲リタルトキ並ニ之ヲ罷メタルトキハ十四日以内ニ師團長ニ届出ヘシ

第三十三條 豫備役後備役將校ニシテ死亡又ハ失踪シタル者アルトキ及失踪中戶籍ヲ轉換シタルトキハ其ノ戶主本人戶主ナレハ家族ヨリ十四日以内ニ師團長ニ届出中家事ヲ擔當スル者

ヘシ失踪者ノ歸郷シタルトキ若クハ踪跡ヲ知得シタルトキ亦同シ但他ノ師管ニ戶籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ師團長ニ届出ヘシ

家族ナキ者ニシテ前項ノ事故ヲ生シタルトキハ市町村長東京市京都市大阪市ニ在テハ區長以下同シヨリ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第三十四條 豫備役後備役將校重罪輕罪罰金ヲ除クノ刑ニ處セラレタルトキハ刑名及刑期ヲ記シ其ノ戶主本人戶主ナレハ家族ヨリ十四日以内ニ師團長ニ届出ヘシ中家事ヲ擔當スル者

家族ナキ者ニシテ前項ノ事故ヲ生シタルトキハ市町村長ヨリ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第三十五條 豫備役後備役將官ヨリ陸軍大臣ニ差出ス願書ハ師團長ヲ經由シ佐官以下ノ將校ヨリ師團長ニ差出ス願書ハ聯隊區司令官ヲ經由シ陸軍大臣ニ差出ス願書ハ聯隊區司令官及師團長ヲ經由スヘシ

第三十六條 第二十七條第二十九條第二項及第三十條第一項及第三項第三十一條乃至第三十四條ノ届出ヲ爲ササル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處

第三十七條 第二十九條第三十條ノ通報人正當ノ事由ナクシテ召集ノ命ヲ通報セズ若クハ其ノ通報ヲ遅緩シタル者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第三十八條 本款ハ豫備役後備役ノ將校相當官ニ適用ス

第二章 准士官ノ服役

第三十九條 本章ニ於テ准士官ト稱スルハ步騎砲工輜重兵特務曹長、砲工兵上等監護及二等軍樂長ヲ謂フ

第四十條 特務曹長ハ營内ニ居住セシムルヲ例トス警備隊ニ在テ警備隊區在籍ノ者ハ外泊ヲ許スコトアルヘシ

第四十一條 准士官ノ現役年限年齢ハ左ノ如シ

砲工兵上等監護 五十一歳

二等軍樂長 四十八歳

步騎砲工輜重兵特務曹長 三十七歳

第四十二條 現役年限年齢ニ滿タサルモ服役十一年以上ニシテ現役ニ堪ヘサル者ハ所管長官旨ヲ諭シテ現役ヲ退カシムルコトアルヘシ

第四十三條 特務曹長ハ現役年限年齢ニ滿タサルモ正當ノ事故アルトキハ本人ノ願ニ依リ現役ヲ免シ豫備役ニ服セシムルコトヲ得

第四十四條 特務曹長ハ現役年限年齢ニ滿チ現役ヲ退キタルトキハ豫備役ニ豫備役終ルノ後ハ後備役ニ服セシム

第四十五條 豫備役後備役特務曹長ノ服役年期ハ豫備役ニ在テハ現役年限年齢ニ滿ツル年ヨリ第四年目ノ三月三十一日迄トシ後備役ニ在テハ豫備役滿期後五箇年トス

第四十六條 豫備役後備役砲工兵上等監護及豫備役後備役二等軍樂長ノ服役年期ハ豫備役ニ在テハ現役年限年齢ニ滿ツル年ノ三月三十一日迄トシ後備役ニ在テハ現役年限年齢ニ滿ツル年ヨリ第六年目ノ三月三十一日迄トス

第四十七條 准士官ノ現役豫備役後備役服役ニ關スル諸般ノ事項ニ就テハ第一章第二

條第五條第十三條第十四條第十
六條第十七條第三十八條ヲ除ク
師團長ニ差出スモノトス

第四十八條 豫備役後備役ノ下士ヨリ特務曹長ニ進級シタル者ノ服役年期ハ豫備役
ニ在テハ現役定限年齢ニ滿ツル年ヨリ第四年目ノ三月三十一日迄トシ後備役ニ在
テハ現役定限年齢ニ滿ツル年ヨリ第九年目ノ三月三十一日迄トス

第三章 下士ノ服役

第一款 通則

第四十九條 下士ノ服役ハ十二箇年四箇月トシ之ヲ分テ現役豫備役及後備役トス其
ノ服役ヲ終リタルトキハ第一國民兵役ト服セシム

第五十條 各兵役期限既ニ滿ツルト雖戰時或ハ事變ニ際スルトキ若クハ臨時ニ演習
或ハ觀兵ノ舉アルトキ若クハ航海中或ハ外國駐劄中ハ其ノ期限ヲ延ハスコトアル
ヘシ其ノ服役年期ノ計算ハ延期セサル者ニ同シ

第五十一條 現役ヲ離ルルトキ服役十二箇年四箇月ヲ過キ豫備役後備役ニ服セサル

者及事故ニ由リ常備後備ノ役若クハ兵役ヲ免スル者ハ同時ニ其ノ官ヲ免シ後備役
滿期ノ者ハ別ニ辭令ヲ用非スシテ其ノ官消滅スルモノトス

第二款 現役

第五十二條 現役下士ハ所屬部隊ノ兵籍ニ編入シ現役期限滿ツル迄服役セシム

第五十三條 隊附現役下士 憲兵隊軍樂隊ハ營内ニ居住セシムルヲ例トス但警備隊ニ
在テ警備隊區在籍ノ者ハ外泊ヲ許スコトアルヘシ

第五十四條 現役下士ノ服役期限ハ左ノ如シ

- 一 教導團及要塞砲兵射擊學校卒業者ヨリ下士ニ任セラレタル者及砲兵監護ニ任
セラレタル者ハ任官ノ日ヨリ四箇年
- 二 憲兵科下士ハ憲兵上等兵ヨリ任セラレタル者ハ憲兵上等兵ヲ命セラレタル日
ヨリ步騎砲工輜重兵科下士ヨリ任セラレタル者ハ憲兵下士任官ノ日ヨリ七箇
年但臺灣憲兵ハ三箇年

- 三 砲兵工科學校及經理學校卒業者ヨリ諸工下士 火工下士
ヲ除クニ任セラレタル者ハ任

官ノ日ヨリ七箇年

四 工兵監護砲臺監守ハ任官ノ日ヨリ七箇年四箇月

五 蹄鐵工下士ハ入隊ノ日ヨリ五箇年

六 軍樂部下士ハ樂生ヲ命セラレタル日ヨリ七箇年四箇月

第五十五條 下士ハ現役満期ノ後現役定限年齢ニ滿ツル迄ハ數次再服役ヲ爲スコトヲ得

第五十六條 下士ノ現役定限年齢ハ左ノ如シ

砲工兵監護

砲臺監守

四十八歲

諸工長

諸工下長

憲兵科下士

衛生部下士

四十五歲

軍吏部下士

軍樂部下士

四十歲

第五十七條 再服役年期ハ通常一年ヲ以テ一期トス滿七年以上服役シ尙服役中ノ者ハ三年若クハ二年ヲ以テ一期トシ之ヲ請フコトヲ得

一 期間ニ於テ現役定限年齢ニ滿ツル者ハ其ノ定限迄之ヲ請フモノトス

再服役ハ自己所屬ノ中隊 憲兵分隊ニ在テハ分隊、警備隊ニ在テハ步兵砲兵隊長、軍樂隊ニ在テハ該隊以下同シ 若クハ所屬諸本部諸官廨ニ於テスルモノトス

第五十八條 再服役ハ中隊ニ在テハ其所屬中隊長 憲兵分隊ニ在テハ分隊長、警備隊ニ在テハ該隊長ニ出願シ該中隊長ハ順序ヲ經テ聯隊長又ハ之ト同等以上ノ權アル長官ノ認可ヲ請フヘシ

諸本部諸官廨ニ在テハ直屬長官ニ出願スヘシ但直屬長官聯隊長ト同等ノ權ナキトキハ聯隊長同等以上ノ權アル長官ノ認可ヲ請フヘシ

衛生部軍吏部下士ノ再服役ハ聯隊長又ハ之ト同等以上ノ權アル長官ヨリ當該監督部長若クハ軍醫部長ニ豫メ協議スヘシ

再服役ヲ許可シタルトキハ誓約書ヲ中隊長若クハ直屬長官ニ出サシム

第五十九條 再服役許可ノ後轉隊若クハ轉職シタルトキハ其ノ誓約書ヲ新所屬ノ中隊長若クハ直屬長官ニ移スヘシ

第六十條 現役中本人ヲ要スルニ非サレハ一家ノ生計ヲ營ミ難キ事故ヲ生スルトキハ本人ノ願ニ依リ現役ヲ免スルコトヲ得

第六十一條 現役中傷痍若クハ疾病ニ由リ現役ニ堪ヘ難キ者ハ現役ヲ免ス

第六十二條 現役中傷痍若クハ疾病ニ由リ常備後備ノ役ニ堪ヘ難キ者ハ其ノ役ヲ免シ永久服役ニ堪ヘ難キ者ハ兵役ヲ免ス

第六十三條 憲兵下士ニシテ素行修マラサル者ハ特ニ現役ヲ免ス

第六十四條 憲兵下士其ノ職務ヲ辱シムルニ依リ懲罰ノ處分ヲ受ケ其ノ情重キモノハ陸軍懲罰令ノ規定ニ拘ハラヌ官ヲ免スルコトヲ得

第六十五條 現役満期ニ至リタル者ハ其ノ服役シタル年月ヲ通算シ七箇年四箇月ニ滿タサルトキハ豫備役ニ十二箇年四箇月ニ滿タサルトキハ後備役ニ服セシム

第六十六條 第六十條第六十一條第六十三條ニ依リ現役ヲ免シタル者ハ前條ノ例ニ依リ豫備役又ハ後備役ニ服セシメ第六十二條ニ依リ常備後備ノ役ヲ免シタル者ハ第一國民兵役ニ服セシム

下士ニシテ禁錮ノ刑ニ處セラレ官ヲ失ヒ又ハ陸軍懲罰令若クハ第六十四條ニ依リ官ヲ免セラレタル者ハ歩騎砲工輜重兵科ニ在テハ當該兵科ノ兵卒ト爲シ憲兵科及各部ニ在テハ前兵科ノ兵卒ト爲シ軍樂部ニ在テハ樂生ト爲シ其ノ服役シタル年月ヲ通算シ三箇年ニ滿タサル者ハ三箇年ニ滿ツル迄現役ニ服セシメ三箇年ヲ過クル者ハ前條ノ例ニ依リ豫備役又ハ後備役ニ服セシメ十二箇年四箇月ヲ過クル者ハ第一國民兵役ニ服セシム

第六十七條 現役下士ニシテ其ノ服役七箇年四箇月若クハ十二箇年四箇月ノ後尙豫備役若クハ後備役ニ服センコトヲ志願スル者ハ其ノ年數ヲ定メ現役満期ノ際聯隊長若クハ之ト同等以上ノ權アル長官ニ願出ヘシ

聯隊長若クハ之ト同等以上ノ權アル長官前項ノ服役ヲ許可シタルトキハ本人所管ノ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第六十八條 第六十條乃至第六十四條ニ當ル者アルトキハ聯隊長又ハ之ト同等以上ノ權アル長官ハ師團長若クハ之ト同等以上ノ權アル長官ノ認可ヲ請ヒ現役、常備

後備役又ハ兵役ヲ免ス但師團長及之ト同等以上ノ權アル長官ニ在テハ自ラ之ヲ處分ス

衛生部軍吏部下士ニ在テハ聯隊長若クハ之ト同等以上ノ權アル長官ヨリ當該監督部長又ハ軍醫部長ニ移シ監督部長軍醫部長ハ經理局長又ハ醫務局長ノ認可ヲ請ヒ現役、常備後備役又ハ兵役ヲ免ス但經理局所屬官衙ニ在テハ該局長自ラ之ヲ處分ス

第六十九條 現役中禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ逃亡シタル者ハ其ノ刑期中及逃亡中ノ日數ハ現役服役年期ニ算入セス

第三款 豫備役及後備役

第七十條 豫備役後備役下士ハ本籍所在師管ノ兵籍ニ編入シ聯隊區司令官ノ管轄ニ屬ス

第七十一條 豫備役下士ノ服役期限ハ其ノ服役シタル年月ヲ通算シ七箇年四箇月トス

第七十二條 後備役下士ノ服役期限ハ豫備役滿期ノ後五箇年トス但七箇年四箇月以上現役ニ服シ直ニ後備役ニ入ル者ハ其ノ服役シタル年月ヲ通算シ十二箇年四箇月トス

第七十三條 豫備役後備役下士服役滿期ニ至リタルトキハ別ニ辭令ヲ用キスシテ豫備役ハ後備役ニ後備役ハ第一國民兵役ニ入ルモノトス

第七十四條 豫備役後備役下士滿期後引續キ服役セント欲スルトキハ年數ヲ定メ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ願出ヘシ

第七十五條 豫備役後備役下士傷痍若クハ疾病ニ由リ豫備後備ノ役ニ堪ヘ難キ者ハ第一國民兵役ニ服セシメ永久服役ニ堪ヘ難キ者ハ兵役ヲ免ス

在郷中傷痍若クハ疾病ニ由リ永久服役ニ堪ヘスト思惟スルトキハ陸軍醫官ノ診斷證書若クハ地方醫師ノ病況書ヲ添ヘ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第七十六條 豫備役後備役下士ハ戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ召集ス平常ニ在テハ每年一度簡閱點呼ヲ爲シ又勤務演習ノ爲メ召集ス

第七十七條 豫備役後備役下士ニシテ文官ニ任セラレ餘人ヲ以テ代フヘカラサル職務ヲ奉スル者、外國ニ在ル者對馬警備隊區ニ在テ朝鮮國釜山ニ旅行又ハ寄留スル者ヲ除ク及市町村長、助役、收入役トナル者ハ勤務演習簡閱點呼ノ爲メ召集スルコトナシ
法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員ト爲ル者其ノ開會中亦同シ

第七十八條 豫備役後備役下士ニシテ他ノ聯隊區警備隊區ニ在テハ其ノ區以下同シニ寄留スル者ハ願ニ依リ其ノ地ニ於テ簡閱點呼ヲ受クルコトヲ得

一箇年以上他ノ師管ニ寄留スル者ハ願ニ依リ寄留地師管ニ於テ勤務演習ヲ爲スコトヲ得

前二項ニ依リ願出ル者ハ其ノ願書ニ本籍市町村長ノ與書證印ヲ受ケ聯隊區司令官ニ差出スヘシ但許可ヲ受ケタルトキハ寄留地到着後寄留後出願ノ者三日以内ニ豫備役後備役編入年、現官ニ任セラレタル年月及昔テ勤務演習ヲ爲シタル年月ヲ記シ其ノ由ヲ寄留地市町村長ヲ經テ同地聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第七十九條 豫備役後備役下士ニシテ止ムヲ得サル事故アリ勤務演習召集ノ猶豫若クハ簡閱點呼ノ免除ヲ願ハント欲スルトキハ其ノ願書ニ市町村長ノ與書證印ヲ受ケ聯隊區司令官ニ差出スヘシ

第八十條 現役ヨリ豫備役若クハ後備役ニ入ル下士ハ十四日以内ニ從前ノ在職地ヲ出發シ一日行程十里詰ヨリ抄カラサル日數間ニ歸郷シ著後十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

從前ノ在職地若クハ其ノ他ノ地ニ二十五日以上滞在若クハ寄留セントスルトキハ前項ノ出發期日內ニ本籍市町村ニ於テ召集ノ命アルトキ之ヲ通報スヘキ者成年以上限ヲ定メ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出テ歸郷シタルトキハ前項ノ届出ヲ爲スヘシ

前項ノ滞在地若クハ寄留地本籍地外ノ聯隊區ニ係ルトキハ其ノ地ノ市町村長ヲ經テ同地聯隊區司令官ニモ届出ヘシ其ノ本籍ニ復歸シ若クハ寄留替ヲ爲サントスルトキ亦同シ

第八十一條 豫備役後備役下士十四日以上旅行或ハ寄留セントスルトキハ召集ノ命

アルトキ之ヲ通報スヘキ者 成年以上ノ男子ニ限ル ヲ定メ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出テ歸郷シタルトキハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

前項ノ寄留地本籍地外ノ聯隊區ニ係ルトキハ寄留地市町村長ヲ經テ同地聯隊區司令官ニモ届出ヘシ其ノ本籍ニ復歸シ若クハ寄留替ヲ爲サントスルトキ亦同シ

外國ニ在ル者召集ノ通報ヲ受ケ又ハ其ノ他ノ手續ニ依リ充員召集若クハ後備軍召集ノ舉アルコトヲ確知シタルトキハ直ニ歸朝シ本籍地到着後二十四時以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第八十二條 豫備役後備役下士兵籍上異動ヲ生シタルトキハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ但他ノ聯隊區ニ戶籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第八十三條 豫備役後備役下士ニシテ市町村長、助役、收入役ト爲リ又ハ法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員ト爲リタルトキ並ニ之ヲ罷メタルトキハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第八十四條 豫備役後備役下士ニシテ死亡又ハ失踪シタル者アルトキ及失踪中戶籍ヲ轉換シタルトキハ其ノ戶主 本人戶主ナレハ家族 ヨリ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ失踪者ノ歸郷シタルトキ若クハ踪跡ヲ知得シタルトキ亦同シ但他ノ聯隊區ニ戶籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

家族ナキ者ニシテ前項ノ事故ヲ生シタルトキハ市町村長ヨリ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第八十五條 豫備役後備役下士重罪輕罪 罰金ヲ除ク ノ刑ニ處セラレタルトキハ刑名及刑期ヲ記シ其ノ戶主 本人戶主ナレハ家族 ヨリ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

家族ナキ者ニシテ前項ノ事故ヲ生シタルトキハ市町村長ヨリ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第八十六條 豫備役後備役中犯罪ノ爲メ又ハ正當ノ事由ナクシテ召集ヲ缺キタル者

其ノ召集ヲ缺キタル年ハ服役年期ニ算入セス

第八十七條 第七十八條第三項但書第八十條第一項及第二項第八十一條第一項及第三項第八十二條乃至第八十五條ノ届出ヲ爲ササル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第八十八條 第八十條第八十一條ノ通報人正當ノ事由ナクシテ召集ノ命ヲ通報セス若クハ其ノ通報ヲ遅緩シタル者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第四章 兵卒ノ服役

第一款 通則

第八十九條 本章中ノ兵卒又ハ兵ニハ雜卒及職工ヲ包含ス

第九十條 徵兵令第七條第十六條第二十四條第二十九條第一項但書及第三項ノ規定ハ憲兵上等兵、樂手補、樂生及下士ニシテ官ヲ失ヒ若クハ官ヲ免セラレ兵卒ト爲リタル者並ニ第百六十條ノ兵卒ニ適用ス

第九十一條 憲兵上等兵、樂手補、樂生ノ服役期限ハ十二箇年四箇月トシ之ヲ分テ現

役豫備役及後備役トス其ノ服役終リタルトキハ第一國民兵役ニ服セシム

第九十二條 兵卒ハ年齡滿四十歳ヲ以テ服役ノ終期トス但第百三十二條ニ依リ服役スル者ハ滿四十五歳トナル年ノ三月三十一日ヲ以テ終期トス

第二款 現役

第九十三條 現役兵ハ入隊ノ日ヨリ其ノ隊ノ兵籍ニ編入シ現役期限滿ツル迄服役セシム

第九十四條 現役兵ハ營内ニ居住セシムルヲ例トス

憲兵上等兵、樂手補ハ營外ニ居住セシム

樂生中品行方正勤務勉勵技藝熟達且樂生ヲ命セラレタル日ヨリ一箇年以上精勤セシ者ハ營外ニ居住セシムルコトアルヘシ

警備隊看護手、縫工、靴工中品行方正勤務勉勵且技藝熟達ノ者ハ外泊ヲ許スコトアルヘシ

第九十五條 憲兵上等兵ノ現役期限ハ憲兵上等兵ヲ命セラレタル日ヨリ七箇年トス

但臺灣憲兵ハ三箇年トス

第九十六條 砲兵助卒、砲兵輸卒、輜重輸卒ノ現役期限ハ二箇年四箇月トシ砲兵助卒ハ一箇年間、砲兵輸卒ハ四箇月間、輜重輸卒ハ三箇月間在營セシム

戰時若クハ事變ニ際スルトキ其ノ他必要ノ場合ニハ在營期限ヲ伸縮スルコトアルヘシ

第九十七條 樂手補、樂生ノ現役期限ハ樂生ヲ命セラレタル日ヨリ七箇年四箇月トス

第九十八條 警備隊現役兵ノ在營期限ハ一箇年トス

第九十九條 警備隊現役兵中上等兵タルノ技能ヲ有スル者及上等兵、看護手ニシテ志願ノ者ハ尙一箇年間在營セシムルコトヲ得

警備隊上等兵及看護手中下士タルノ技能ヲ有スル者及縫工、靴工ニシテ志願ノ者ハ現役期限滿ツル迄在營セシムルコトヲ得

第一百條 上等兵、看護手、樂手補、樂生及警備隊縫工、靴工ハ現役滿期ノ後現役年限年

齡ニ滿ツル迄數次再服役ヲ爲スコトヲ得但步騎砲工輜重兵上等兵及看護手ハ下士タルノ技能ヲ有スル者ニ限ル

前項ノ再服役ニ關シテハ第五十七條乃至第五十九條ヲ適用ス

第一百一條 兵卒ノ現役年限年齢ハ左ノ如シ

憲兵上等兵 雜卒 職工 四十歲

步騎砲工輜重兵卒 三十五歲

第一百二條 現役中本人ヲ要スルニアラサレハ家族自活シ能ハサル事故ヲ生スルトキハ其ノ家族ノ願ニ依リ現役ヲ免ス

第一百三條 現役中傷痍若クハ疾病ニ由リ一時服役ニ堪ヘ難キ者ハ現役ヲ免ス

第一百四條 現役中傷痍若クハ疾病ニ由リ常備後備ノ役ニ堪ヘ難キ者ハ其ノ役ヲ免シ永久服役ニ堪ヘ難キ者ハ兵役ヲ免ス

第一百五條 憲兵上等兵現役中左ニ掲クル事項ニ當ル者ハ其ノ職ヲ免ス
一 職務ヲ辱シムルニ由リ懲罰ノ處分ヲ受ケ其ノ情重キトキ

二 素行修マラス屢懲罰ノ處分ヲ受ケ又ハ上官ノ説諭ヲ受クルモ改悛ノ狀ナキト

キ

第百六條 現役満期ニ至リタル者ハ其ノ服役シタル年月ヲ通算シ七箇年四箇月ニ滿タサルトキハ豫備役ニ十二箇年四箇月ニ滿タサルトキハ後備役ニ服セシム

第百七條 第百二條第百三條ニ依リ現役ヲ免シタル者ハ前條ノ例ニ依リ豫備役又ハ後備役ニ服セシム第百四條ニ依リ常備後備ノ役ヲ免シタル者ハ第一國民兵役ニ服セシム但第百二條第百三條ニ當ル者軍隊第一期ノ教育ヲ卒ラサル前ニ在テハ第二補充兵役ニ服セシム其ノ服役年期ハ前役ヲ通シテ一箇年四箇月トス

第百八條 上等兵、看護手及樂手補ニシテ禁錮ノ刑ニ處セラレ職ヲ失ヒ又ハ陸軍懲罰令若クハ第百五條ニ依リ職ヲ免セラレタル者ハ歩騎砲工輜重兵科ニ在テハ當該兵科ノ兵卒ト爲シ憲兵上等兵及看護手ニ在テハ前兵科ノ兵卒ト爲シ樂手補ハ樂生ト爲シ其ノ服役シタル年月ヲ通算シ三箇年ニ滿タサル者ハ三箇年ニ滿ツル迄現役ニ服セシム三箇年ヲ過クル者ハ第百六條ノ例ニ依リ豫備役又ハ後備役ニ服セシム

十二箇年四箇月ヲ過クル者ハ第一國民兵役ニ服セシム

第百九條 第百二條ニ依リ免役ヲ願出テントスル者ハ其ノ願書ニ同徵募區内現役兵ノ戸主憲兵上等兵、樂手補、樂生ハ近鄰ノ戸主二名ノ保證書ヲ添ヘ島司郡市長ヲ經テ聯隊區司令官ニ

差出スヘシ但町村ニ於テハ町村長ノ與書證印ヲ受クヘキモノトス
島司郡市長ハ其ノ事實ヲ審覈シ狀況書ヲ作り願書ト共ニ聯隊區司令官ニ送附シ聯隊區司令官ハ之ニ意見ヲ附シ願書ト共ニ本人所屬ノ聯隊長若クハ之ト同等以上ノ權アル長官ニ移スヘシ

第百十條 第百二條乃至第百五條ニ當ル者アルトキハ聯隊長若クハ之ト同等以上ノ權アル長官ハ師團長若クハ之ト同等以上ノ權アル長官ノ認可ヲ請ヒ現役、常備後備役又ハ兵役ヲ免ス

第百十一條 憲兵上等兵、樂手補、樂生現役中禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ逃亡シタルトキハ其ノ刑期中逃亡中ノ日數ハ服役年期ニ算入セス

第百十二條 現役中徵兵令第十五條ニ依リ歸休ヲ命ヌヘキ者ハ二箇年以上服役シタ

ル者ニ限ル但警備隊兵卒、砲兵助卒ハ八箇月以上在營シタル者ニ限ル
歸休ヲ命スヘキ人員ハ陸軍大臣上裁ヲ經テ之ヲ定ム

第百十三條 歸休兵ハ本籍所在師管ノ兵籍ニ編入シ聯隊區司令官ノ管轄ニ屬ス

第百十四條 歸休兵在郷中現役滿期ニ至リタルトキハ別ニ命ナクシテ豫備役ニ入ル
モノトス

第百十五條 歸休兵在郷中傷痍若クハ疾病ニ由リ永久服役ニ堪ヘスト思惟スルトキ
ハ陸軍醫官ノ診斷證書若クハ地方醫師ノ病況書ヲ添ヘ市町村長ヲ經テ聯隊區司令
官ニ届出ヘシ

第百十六條 歸休兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ召集ス平常ニ在テハ毎年一度簡閱
點呼ヲ爲シ又演習ノ爲メ若クハ臨時兵員ノ補缺ヲ要スルトキ之ヲ召集ス

第百十七條 歸休兵ハ官廳ニ奉職スルコトヲ得但奉職ノ故ヲ以テ召集ヲ猶豫若クハ
免除スルコトナシ

第百十八條 歸休兵ハ退營後七日以内ニ衛戍地ヲ出發シ一日行程十里計ヨリ少カラ

サル日數間ニ歸郷シ著後七日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ
退營後衛戍地若クハ其ノ他ノ地ニ八日以上滞在若クハ寄留セントスルトキハ前項
ノ出發期日內ニ本籍市町村ニ於テ召集ノ命アルトキ之ヲ通報スヘキ者 成年以上ノ
男子ニ限ル
ヲ定メ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出テ歸郷シタルトキハ前項ノ届出ヲ爲ス
ヘシ

前項ノ滞在地若クハ寄留地本籍地外ノ聯隊區ニ係ルトキハ其ノ地ノ市町村長ヲ經
テ同地聯隊區司令官ニモ届出ヘシ其ノ本籍ニ復歸シ若クハ寄留替ヲ爲サントスル
トキ亦同シ

第百十九條 歸休兵十四日以上旅行又ハ寄留セントスルトキハ召集ノ命アルトキ之
ヲ通報スヘキ者 成年以上ノ
男子ニ限ルヲ定メ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出テ歸郷シタ
ルトキハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ其ノ由ヲ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

前項ノ寄留地本籍地外ノ聯隊區ニ係ルトキハ寄留地市町村長ヲ經テ同地聯隊區司
令官ニモ届出ヘシ其ノ本籍ニ復歸シ若クハ寄留替ヲ爲サントスルトキ亦同シ

第二百十條 歸休兵ハ外國ニ旅行又ハ寄留スルヲ許サス

對馬警備隊區ニ在テハ朝鮮國釜山ニ旅行又ハ寄留スルコトヲ得但此ノ場合ニ於テハ第二百十九條第一項ノ例ニ依ルヘシ

第二百十一條 歸休兵兵籍上異動ヲ生シタルトキハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ但他ノ聯隊區ニ兵籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第二百十二條 歸休兵ニシテ死亡又ハ失踪シタル者アルトキ及失踪中兵籍ヲ轉換シタルトキハ其ノ戶主本人戶主ナレハ家族ヨリ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ失踪者ノ歸郷シタルトキ若クハ踪跡ヲ知得シタルトキ亦同シ但他ノ聯隊區ニ兵籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ聯隊區司令官ニ届出ヘシ
家族ナキ者ニシテ前項ノ事故ヲ生シタルトキハ市町村長ヨリ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第二百十三條 歸休兵重罪輕罪罰金ヲノ刑ニ處セラレタルトキハ刑名及刑期ヲ記シ

其ノ戶主本人戶主ナレハ家族ヨリ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ中家事ヲ擔當スル者
家族ナキ者ニシテ前項ノ事故ヲ生シタルトキハ市町村長ヨリ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第二百十四條 歸休兵演習又ハ臨時兵員補缺ノ爲メ召集ノ命ヲ受ケタルトキ傷痍疾病其ノ他ノ事故ニテ召集ニ應シ難キトキハ傷痍疾病ノ者ハ陸軍醫官ノ診斷證書若クハ地方醫師ノ病況書其ノ他ノ事故ハ證明書ヲ添ヘ召集期日迄ニ市町村長ノ與書證印ヲ受ケ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第二百十五條 第一百十八條第一項及第二項第一百十九條第一項第一百二十條第二項第一百二十一條乃至第一百二十四條ノ届出ヲ爲ササル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二百十六條 第一百十八條第一百十九條ノ通報人正當ノ事由ナクシテ召集ノ命ヲ通報セズ若クハ其ノ通報ヲ遲緩シタル者及第一百二十條第一項ニ違背シタル者ハ一日以

上十日以下ノ拘留ニ處ス

第二百二十七條 警備隊兵卒、砲兵助卒、砲兵輸卒、輜重輸卒ニシテ在營期限満チ退營後尙現役中ニ在ル者ハ本籍所在師管ノ兵籍ニ編入シ聯隊區司令官ノ管轄ニ屬ス其ノ在郷中ハ第百十四條乃至第百二十六條ノ規定ニ從フモノトス

第三款 豫備役及後備役

第二百二十八條 豫備役後備役兵卒ハ本籍所在師管ノ兵籍ニ編入シ聯隊區司令官ノ管轄ニ屬ス

第二百二十九條 再服役満期若クハ第百七條第百八條ニ依リ豫備役ニ入ル者ノ服役期限ハ其ノ服役シタル年月ヲ通算シ七箇年四箇月トス臺灣憲兵ニシテ通常ノ現役ヲ終リ豫備役ニ入ル者亦同シ

第二百三十條 前條ニ依リ豫備役ヲ終リタル者ハ五箇年間後備役ニ服セシム七箇年四箇月以上現役ニ服シ直ニ後備役ニ入ル者ノ服役期限ハ其ノ服役シタル年月ヲ通算シ十二箇年四箇月トス

第二百三十一條 豫備役後備役兵卒服役満期ニ至リタルトキハ別ニ命ナクシテ豫備役ハ後備役ニ後備役ハ第一國民兵役ニ入ルモノトス

第二百三十二條 豫備役後備役兵卒ニシテ各兵科、衛生部、軍吏部下士適任證書又ハ砲兵工科學校、經理學校卒業證書ヲ所持スル者ハ満期後引續キ服役スルコトヲ得志願ノ者ハ年數ヲ定メ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ願出ヘシ

第二百三十三條 豫備役後備役兵卒傷疾若クハ疾病ニ由リ豫備後備ノ役ニ堪ヘ難キ者ハ第一國民兵役ニ服セシメ永久服役ニ堪ヘ難キ者ハ兵役ヲ免ヌ

在郷中傷疾若クハ疾病ニ由リ永久服役ニ堪ヘスト思惟スルトキハ陸軍醫官ノ診斷證書若クハ地方醫師ノ病況書ヲ添ヘ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ願出ヘシ

第二百三十四條 豫備役後備役兵卒ニシテ外國ニ旅行又ハ寄留中ノ者ハ勤務演習簡閱點呼ノ爲メ召集スルコトナシ但對馬警備隊區ニ在テ朝鮮國釜山ニ旅行又ハ寄留スル者ハ此ノ限ニアラス

第二百三十五條 豫備役後備役兵卒ニシテ他ノ聯隊區ニ寄留スル者ハ願ニ依リ其ノ地

ニ於テ簡閱點呼ヲ受クルコトヲ得
一箇年以上他ノ師管ニ寄留スル者ハ願ニ依リ寄留地師管ニ於テ勤務演習ヲ爲スコ
トヲ得

前二項ニ依リ願出ル者ハ其ノ願書ニ本籍市町村長ノ奥書證印ヲ受ケ聯隊區司令官
ニ差出スヘシ但許可ヲ受ケタルトキハ寄留地到着後寄留後出願ノ者三日以内ニ豫
備役後備役編入年ヲ記シ其ノ由ヲ寄留地市町村長ヲ經テ同地聯隊區司令官ニ届出
ヘシ

第三百二十六條 豫備役後備役兵卒ニシテ止ムヲ得サル事故アリ勤務演習召集ノ猶豫
若クハ簡閱點呼ノ免除ヲ願ハント欲スルトキハ其ノ願書ニ市町村長ノ奥書證印ヲ
受ケ聯隊區司令官ニ差出スヘシ

第三百二十七條 現役ヨリ豫備役若クハ後備役ニ入ル兵卒ハ七日以内ニ衛戍地ヲ出發
シ一日行程十里詰ヨリ抄カラサル日數間ニ歸郷シ著後七日以内ニ市町村長ヲ經テ
聯隊區司令官ニ届出ヘシ

衛戍地若クハ其ノ他ノ地ニ八日以上滞在若クハ寄留セントスルトキハ前項ノ出發
期日內ニ本籍市町村ニ於テ召集ノ命アルトキ之ヲ通報スヘキ者成年以上ノ男子ニ限ルヲ定メ
市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出テ歸郷シタルトキハ前項ノ届出ヲ爲スヘシ
前項ノ滞在地若クハ寄留地本籍地外ノ聯隊區ニ係ルトキハ其ノ地ノ市町村長ヲ經
テ同地聯隊區司令官ニモ届出ヘシ其ノ本籍ニ復歸シ若クハ寄留替ヲ爲サントスル
トキ亦同シ

第三百二十八條 豫備役後備役兵卒十四日以上旅行或ハ寄留セントスルトキハ召集ノ
命アルトキ之ヲ通報スヘキ者成年以上ノ男子ニ限ルヲ定メ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届
出テ歸郷シタルトキハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ
前項ノ寄留地本籍地外ノ聯隊區ニ係ルトキハ寄留地市町村長ヲ經テ同地聯隊區司
令官ニモ届出ヘシ其ノ本籍ニ復歸シ若クハ寄留替ヲ爲サントスルトキ亦同シ
外國ニ在ル者召集ノ通報ヲ受ケ又ハ其ノ他ノ手續ニ依リ充員召集若クハ後備軍召
集ノ舉アルコトヲ確知シタルトキハ直ニ歸朝シ本籍地到着後二十四時以内ニ市町

村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第三百三十九條 豫備役後備役兵卒兵籍上異動ヲ生シタルトキハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ但他人聯隊區ニ戶籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第四百十條 豫備役後備役兵卒ニシテ市町村長、助役、收入役ト爲リ又ハ法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員ト爲リタルトキ並ニ之ヲ罷メタルトキハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第四百十一條 豫備役後備役兵卒ニシテ死亡又ハ失踪シタル者アルトキ及失踪中戶籍ヲ轉換シタルトキハ其ノ戶主本人戶主ナレハ家族中家事ヲ擔當スル者ヨリ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ失踪者ノ歸郷シタルトキ若クハ踪跡ヲ知得シタルトキ亦同シ但他人聯隊區ニ戶籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

家族ナキ者ニシテ前項ノ事故ヲ生シタルトキハ市町村長ヨリ聯隊區司令官ニ通知

スヘシ

第四百十二條

豫備役後備役兵卒重罪輕罪罰金ヲ除クノ刑ニ處セラレタルトキハ刑名及

刑期ヲ記シ其ノ戶主本人戶主ナレハ家族中家事ヲ擔當スル者ヨリ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區

司令官ニ届出ヘシ

家族ナキ者ニシテ前項ノ事故ヲ生シタルトキハ市町村長ヨリ聯隊區司令官ニ通知

スヘシ

第四百十三條

第三百三十五條第三項但書第三百三十七條第一項及第二項第三百三十八條

第一項及第三項第三百三十九條乃至第四百二十二條ノ届出ヲ爲ササル者ハ五錢以上一

圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第四百十四條

第三百三十七條第三百三十八條ノ通報人正當ノ事由ナクシテ召集ノ命ヲ

通報セズ若シハ其ノ通報ヲ遲緩シタル者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第五章 補充兵ノ服役

第四百十五條 第一補充兵第二補充兵ハ本籍所在師管ノ兵籍ニ編入シ聯隊區司令官

ノ管轄ニ屬ス

第四百十六條 補充兵服役滿期ニ至リタルトキハ別ニ命ナクシテ第一補充兵ハ第一國民兵役ニ第二補充兵ハ第二國民兵役ニ入ルモノトス

第四百十七條 補充兵傷痍若クハ疾病ニ由リ補充兵役ニ堪ヘ難キ者ハ第二國民兵役ニ服セシメ永久服役ニ堪ヘ難キ者ハ兵役ヲ免ス

在郷中傷痍若クハ疾病ニ由リ永久服役ニ堪ヘスト思惟スルトキハ陸軍醫官ノ診斷證書若クハ地方醫師ノ病況書ヲ添ヘ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第四百十八條 第一補充兵ニシテ外國ニ旅行又ハ寄留中ノ者ハ勤務演習簡閱點呼ノ爲メ召集スル如トナシ但對馬警備隊區ニ在テ朝鮮國釜山ニ旅行又ハ寄留スル者ハ此ノ限ニアラス

第四百十九條 第一補充兵ニシテ他ノ聯隊區ニ寄留スル者ハ願ニ依リ其ノ地ニ於テ簡閱點呼ヲ受クルコトヲ得

一箇年以上他ノ師管ニ寄留スル者ハ願ニ依リ寄留地師管ニ於テ勤務演習ヲ爲スコ

トヲ得

前二項ニ依リ願出ル者ハ其ノ願書ニ本籍市町村長ノ與書證印ヲ受ケ聯隊區司令官ニ差出スヘシ但許可ヲ受ケタルトキハ寄留地到着後寄留後出願ノ者三日以内ニ第一補充兵編入年ヲ記シ其ノ由ヲ寄留地市町村長ヲ經テ同地聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第四百五十條 第一補充兵ニシテ止ムヲ得サル事故アリ勤務演習召集ノ猶豫若クハ簡閱點呼ノ免除ヲ願ハント欲スルトキハ其ノ願書ニ市町村長ノ與書證印ヲ受ケ聯隊區司令官ニ差出スヘシ

第四百五十一條 補充兵十四日以上旅行或ハ寄留セントスルトキハ召集ノ命アルトキ之ヲ通報スヘキ者成年以上ノ男子ニ限ルヲ定メ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出テ歸郷シタルトキハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

前項ノ寄留地本籍地外ノ聯隊區ニ係ルトキハ寄留地市町村長ヲ經テ同地聯隊區司令官ニ届出ヘシ其ノ本籍ニ復歸シ若クハ寄留替ヲ爲サントスルトキ亦同シ